

西南学院大学文学部外国語学科

英語専攻

ガイドブック

(2010)

Faculty

English Language & Communication Studies

目 次

第1章 授業内容	1
1. ENGLISH AND BEYOND:12期生からカリキュラムが新しくなりました.....	1
2. 各専門分野の紹介.....	1
1.1. 英語学.....	2
1.2. コミュニケーション.....	3
1.3. ビジネス英語.....	4
お薦め.....	4
1.4. 言語文化.....	4
2. 各専攻科目の概略.....	5
2.1. 基礎科目.....	5
2.2. 英語学科目.....	6
2.3. コミュニケーション科目.....	7
2.4. ビジネス英語科目.....	9
2.5. 言語文化科目.....	10
3. 「演習」(ゼミ)の紹介.....	11
3.1. 英語学のゼミ.....	11
3.2. コミュニケーションのゼミ.....	13
3.3. ビジネス英語のゼミ.....	13
3.4. 言語文化のゼミ.....	15
第2章 すぐに役立つ勉強情報	16
1. 辞書情報.....	16
1.1. 英語を書くときに役立つ辞書.....	16
1.2. 英語が面白くなる個性的な辞書.....	18
2. 辞書以外の英語学習文献情報.....	20
3. 「ビジネス英語カタログ」.....	21
4. TOEICについて.....	22
5. 日商ビジネス英語検定.....	22
6. レポートの書き方.....	23
6.1. 序論(introduction)を書く.....	23
6.2. 本論 (body) を書く.....	24
6.3. 結論(conclusion)を書く.....	26
6.4. 参考文献を引用する.....	27
6.4.1. 本文中での引用の仕方.....	27
6.4.2. 「引用文献 (参照文献)」欄の書き方.....	28
6.5. サブトピックの立て方.....	30
7. 英語(ライティング)の書式設定.....	31

第3章 教員・施設・設備	34
1. 専任教員の紹介	34
2. 授業以外での教員との面会について.....	41
2.1. オフィスアワーを利用する	41
2.2. アドバイザー制について.....	42
3. 学生相談室（2号館3階）について.....	42
4. 図書館の紹介	43
5. 言語教育センター紹介	43
6. インターネット利用法.....	44
第4章 留学	45
1. はじめに： 留学を考えている人へ	45
2. TOEFL について	45
3. 海外語学研修に興味がある人へ.....	46
4. 留学生との交流に興味がある人へ.....	46
5. 留学生別科の授業の聴講もできます.....	47
6. 英語専攻の学生向けに国際センターからのメッセージ	47
7. どのような留学先があるか.....	48
第5章 卒業後の進路	49
1. 就職について	49
2. 教職について	49
2.1. 公立学校だけではなく、私立学校も視野に入れる	49
2.2. 在学中に心がけておくこと、勉強しておくこと	49
3. 大学院進学について： 飛び級進学に注目	50

第1章 授業内容

1. English and Beyond:12期生からカリキュラムが新しくなりました

2008年度から、英語専攻のカリキュラムが新しくなりました。この新カリキュラムは、英語専攻の伝統的な強みである英語運営能力を身につけることをさらに強化すること、また、「英語運営能力」の向上だけではなく、その英語能力を生かした社会人として活躍していくために必要な専門知識を養成することを目的としています。英語専攻の新しい標語「English and Beyond」は、英語能力を身につけることと、さらにその先にあるものに飛躍していける学生を育成するという英語専攻の理念を表していますが、新しいカリキュラムは、この理念を達成するためにデザインされています。

具体的に新しいカリキュラムの特徴を紹介しますと、今までのカリキュラムに比べて、英語スキル養成科目という科目区分ができて、英語能力向上のための授業が充実しました。Listening, Speaking, Reading, Writing という4つの英語スキルを総合的に向上させる「英語総合演習」科目や、Listening能力を鍛える「英語音声演習A・B」、Speaking能力の向上を目指す「スピーキングスキル」科目、Writing能力のアップのための「ライティングスキル」科目に加え、新たにReading能力を鍛える「リーディングスキルI・II」が新設されました。また、TOEFLやTOEICなどの英語能力を測る試験の点数を向上させるために、新たに「TOEFL・TOEIC演習A・B」という科目が作られました。さらに、「英語演習」を4年次にも開設し、4年生でも英語スキルの向上を目指せるようにしました。

専門科目は、従来は英語学、コミュニケーション、ビジネス英語の3分野でしたが、新たに言語文化部門を設置し、「言語文化論A・B」という科目を新たに開講します。この言語文化部門を除く専門分野には、入門クラスがそれぞれ1・2年次に設けられていて、学生が入学当初から英語専攻の専門分野について基礎知識を得ることができるようになりました。これらの入門クラスを通して、3年次から自分がどのような専門科目を履修したいかよく考えてみてください。このガイドブックにそれぞれの専門分野の説明が載っていますので、入門科目やそういった情報を活用して、自分の卒業後の夢を実現させるために、有効に積極的に専門科目を学んで欲しいです。

専門科目以外には、共通科目と関連科目を履修する必要があります。これらについては、便覧を良く見て、必修の共通科目を必ず履修してください。関連科目は、上記の専門分野と関連して、

(1) 言語や文化を探究する、(2) ビジネスや経営を学ぶ、(3) 現代国際社会をとらえる、(4) 情報リテラシーを高める、と言うように、皆さんの専門的な興味やキャリア目標に応じて用意されていますので、専門で学ぶことを上手く発展させたり補ったりするように履修することをお勧めします。

2. 各専門分野の紹介

英語専攻には、英語学、ビジネス英語、コミュニケーション、言語文化の四つの専門分野があります。以下、それぞれの専門分野について紹介します。

1.1. 英語学

英語学は英語という言語の仕組みを研究します。言語には音と構造と意味の三つの要素があり、それぞれに興味深い特徴が観察されます。言うまでもなく、これらの要素は長い歴史の変遷の結果です。英語を習得するには、英語という言語の特徴を学ぶ必要があります。英語学分野の諸科目は、その機会を皆さんに提供するものです。

英語学担当の各教員の授業内容を紹介します。

<藤本 滋之>

言語は音、意味、構造の三つの要素に分けることができ、それぞれに興味深い特徴を見出すことができます。その特徴を知っておくことが言語を使いこなすカギとなることは言うまでもありません。私の英語学関係の科目では、英語の音、意味、構造の特徴を、特に日本語のそれと比較しながら考察します。

<樋口 功>

私の授業は、英語の音にこだわったものから、実用的な英文法・語法、日英対照言語学、実践的な英語科教育に関するものまで多岐にわたります。「演習」(ゼミ)は、英語学の専門知識と現場での実践的経験を生かし、「英語教師を目指す学生のための実践的準備講座」を開講しています。

<伊藤 彰浩>

私の担当する英語学関連の科目では、日本人の英語学習者が英語を学習・習得する過程に焦点を当てながら、英語学習をする際の困難点の考察を通して、ことばの学習・習得のメカニズムについて理解を深めます。また日本で広く用いられている英語テストの考察を行い、英語学力の測定・評価に関する問題を取り上げます。

<川瀬 義清>

人間は、自分をとりまく世界の中で、その世界を様々に認識し、また様々な相互作用や経験をもちながら生きています。そうした人間の認知的な営み、こころの働きが、ことばにどのように反映されているかという観点からことばを研究していきます。同じ出来事であっても人によって、文化によって捉え方が異なると、表現の仕方が異なってきます。異なる表現は、どんな見方の違いを反映しているのだろうかということを考えながら、英語の様々な表現を私たちの母語である日本語と比較し、その特徴を探っていきます。また、認知的な観点から英語と日本語を比較することにより、第二言語習得の問題にも取り組んでいきます。

<久屋 孝夫>

言語のしくみの研究にはいろいろな方法があります。(1) ヒト種の言語生得的基盤に立脚して普遍的な言語生成規則を求める理論言語学的研究、(2) コンテキストとの関連で、発話者の意図・真意に踏み込んで文の解釈をする語用論的研究、(3) メタファーなどを手掛かりにして普遍的な思考様式を探る認知科学的分析、(4) さらに社会の成員どうしが織り成す言語の多様性を、成員の帰属する集団や、歴史的、文化的、地理的、社会的、環境的要因と関連づけて研究する社会言語学的分析、などに分かれます。

私の関心は(4)にあります。理解しやすいように、以下のトピックでおおよその領域を示します。

- (1) 多様性: 地理的, 時代的, 世代的変種 (バラエティ varieties)
- (2) 差別問題: 人種・民族差別(racism, ethnocentrism), 性差別(sexism, sexist language, gender issue)
- (3) ことばの言い換え, ポリティカル・コレクトネス (PC: Political Correctness)
- (4) 婉曲語法 (美化語法, ユーフェミズム euphemism), 偽悪語法 (醜化語法, ディスフェミズム dysphemism)
- (5) 言語による認識・思考統制 (thought control), ダブルトーク(doubletalk), ニュースピーク(Newspeak) (George Orwell's 1984)

1.2. コミュニケーション

人間が関係を築いて, 社会生活を送り, さらにひとりひとりが自分自身について客観的な認識をする上で欠かすことができないのがコミュニケーションです。では, なぜ英語専攻の学生としてコミュニケーションを勉強するのでしょうか。それは, まず言語を使う最大の目的は人とコミュニケーションすることだからです。英語の文法力, 語彙力, 聴解力, 読解力, 作文力, 会話力などを伸ばしながら, どの言語でも大切な人間としてのコミュニケーション行動の仕組みを学ぶことは, 英語によるコミュニケーション能力を向上させるのに不可欠です。

そんな人間の行動を扱うコミュニケーション学という分野は, 非常に多岐にわたります。英語専攻では, その中で特に, コミュニケーション理論の一般的な知識, 主に一対一の人間関係に焦点をおく対人コミュニケーション, スピーチやマスコミが焦点である公的コミュニケーション, それに異なる文化的背景の人間同士の関係を考える異文化コミュニケーションの三つを「強化分野」としてカリキュラムを組んでいます。

これだけ多岐に渡る分野ですから, 「これ」という参考文献一冊を紹介することは困難です。西南学院大学はコミュニケーションを専門とする教員数では日本で最大の規模を誇ります。したがって, 図書館のコミュニケーション関連の蔵書数も国内のみならず, 米国の大学の図書館と比較しても決して劣りません。語学関連の図書 (801-809), 社会科学関連 (361-365)のコーナーで興味をそそられる多くの本と出会うことができるはずです。

また, 本学の図書館はCIOS (Communication Institute for Online Scholarship)や, Proquest, Science Direct という, 検索システムを利用して, コミュニケーション学の最先端を飾る学会論文や学術論文を検索, 講読することもできます。ここで調べた論文は, さらに出版社のサイトから直接電子媒体で読めるものも多いです。古いものは, まだ伝書媒体化されていないものもありますが, 本学の図書館には, 主要なコミュニケーションの学術雑誌が揃っていますので, 閲覧が可能です。最後に忘れてはいけないのが, コミュニケーションの専攻科目を担当する教員を利用することです。それぞれの専攻分野に関する情報, 勉強の仕方, 図書の選び方などは, みなさんひとりひとり異なることも十分に考えられます。わたしたち教員が, 授業でクラス全体に向けて話すことから得られない, 自分にとっての勉強法を見つけるためには, わたしたちの研究室に足を運んで, 興味ある勉強の内容, 将来の進路, 疑問点などについて積極的に相談しましょう。

コミュニケーション学は「実学」と呼ばれ, 理論的な知識だけで頭でっかちになるのではなく, 実際に日々の生活に活かせる能力を習得することが大きな目的です。わたしたち教員も, みなさんとの豊かなコミュニケーションに励んでいます。

1.3. ビジネス英語

海外旅行の手続きをする，ホテルに泊まる，レストランで食事をする，乗り物や街中の広告，標語，放送案内を見たり聞いたり，買い物をする時などで必要になる英語はすべてビジネス英語の基礎です。

しかしこれがビジネス英語のすべてではありません。グローバル化の進んだビジネス社会で仕事をするためには，契約書を含む各種ビジネス文書の処理，来客の応対，電話，会議，交渉，プレゼンテーションなど，ビジネスコミュニケーションのさまざまな場面に対応できなければなりません。

そのためには，ただ流暢に英語をしゃべるだけではなく，アイデンティティの確立，幅広いビジネスの知識，恥ずかしくない会話力とライティング能力，異文化への適応力，それらを具体的に表現，発信するためのコンピュータ技能などが不可欠になります。

英語専攻のビジネス英語は貿易を幹として据えています。この幹からメーカー、商社、金融機関、保険業界、運輸業界、調査機関および業者、国をはじめ行政機関などの枝がネットワークを形成しています。この俯瞰的知識とそのネットワークの相互関係を認識しておくことは卒業後実社会で活躍する際に大いに役立ちましょう。

結局ビジネス英語の目的はこのような総合的な視野に立った知識とコミュニケーション能力を身につけることですが，TOEIC テストやビジネス英語検定の資格をとったり，LL での自主的な学習，パソコン，インターネットの自習など，授業以外にもさまざまな学習サポート体制を利用することができます。詳しくは英語専攻のホームページ(<http://www.seinan-gu.ac.jp/eisen/>)を参考にしてください。

参考文献：

亀田尚己『ビジネス英語を学ぶ』ちくま新書，2002

亀田尚己『国際ビジネスコミュニケーションの研究』文真堂，2003

J. W. Salacuse 著，則定/亀田/福田訳『実践グローバル交渉』中央経済社，1996

E. P. Bailey. *Writing and Speaking at Work: A Practical Guide for Business Communication*, Prentice-Hall, 1999

R. W. Bly & R.A. Kelly. *The Encyclopedia of Business Letters, Fax Memos, and E-Mail*, Career Press, 2nd. 2009.

Andrea B. Geffner, *How to Write Better Business Letter*; 4th ed. Barron's Educational Series, Inc., 2007

お薦め

ビジネス英語に限らず、英語というスキルに簿記・会計学の実践的知識を身に付けることをお薦めします。具体的には関連科目の「簿記原理Ⅰ」です。

1.4. 言語文化

言語と文化は，密接な関係にあります。言語を理解するためには，その文化的背景を知っている必要がありますし，また文化を理解するには，その文化が反映されている言語を理解する必要があります。このように言語と文化の密接な関係について学ぶのが，この専門分野です。具体的には，英文学（アメリカ文学・イギリス文学）や英文学史を通して，文学作品に反映されている

文化的背景と英語表現との関係を学んだり、神話や宗教的説話と言語の関係を学んだりします。また、比較文化的な観点から英語文化と日本語文化についても学びます。

2. 各専攻科目の概略

英語専攻を卒業するためには、学生便覧にあるように、所定の単位の専攻科目、関連科目(専攻科目との関連が深い科目)、共通科目(視野を広げ教養を深める科目)を修得しなければなりません。ここでは、専攻科目について、その概略を説明します。

専攻科目は(1)基礎科目、(2)英語学科目、(3)コミュニケーション科目、(4)ビジネス英語科目、(5)言語文化科目、(6)演習・卒業論文、に分かれます。このうち、(2)、(3)、(4)は、第1節で述べた英語専攻の三つの専攻分野に対応していますが、(1)は三分野すべての基礎を固めるための科目、(5)は英米文学に関する教養を高めるための科目、(6)はいわゆるゼミの科目です。ここでは(1)~(4)について説明し、(6)については節を改めて詳しく説明します。

2.1. 基礎科目

<ことば学入門>

私たちは日常生活においてことばをなにげなく使っていますが、その裏ではさまざまな仕組みが働いています。この科目ではことばが持つ仕組みについて、特に人間と言語のかかわりを中心に、日本語と英語を比較しながら様々な面からとらえていきます。主なトピックとして、ことばはどのような機能をもっているのか、動物はことばを使うことができるだろうか、ことばを使うとき私たちの脳はどのような働いているのだろうか、ことばと文化はどのように関わっているだろうか、などを取り上げます。

<コミュニケーション学入門>

「コミュニケーション」ということばを皆さんは日常よく使っていると思いますが、それについて学問が存在することを知らない、「コミュニケーション」の真の意味を知らない、という人が多いと思います。この講義では、初めてコミュニケーションについて学ぶ皆さんに、コミュニケーションの基本であるシンボルについて学び、コミュニケーションと対人関係や日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションの違いなどを紹介します。担当教員は、皆さんがこの授業でコミュニケーションに興味を持ち、2年次以降のコミュニケーション科目の「ガイド」となることを目指しています。

<英文法>

英語学、コミュニケーション、ビジネス英語のどの分野を学ぶのにも必要な英文法の知識を学びます。一つの文を書いたり話したりするのに必要な英文法の知識は高校卒業までに学習済みのはずですが、その復習と発展はもちろん、複数の文から成るパラグラフや、もっと長い文章を書いたり話したりするのに必要な文法の知識を学びます。

<英語音声学>

英語を聞いたり話したりするのに必要な音声学の基礎知識を学びます。どの言語にもその言語特有の音がありますが、その音の特色を研究する分野が音声学です。その研究成果を利用して英語の音の特徴を学び、英語を聞き取るコツ、英語を発音するコツを学びます。

2.2. 英語学科目

<英語学概論 (A) >

英語をそれが使用される言語外の諸要素（社会，文化，歴史）との関連で考察する科目です。主なトピックは：

- (1) 英語語彙の特色(語のルーツ探索，特定領域の語彙ネットワーク historical menu)
- (2) 言葉遊び(レイス・キャロルの Alice's Adventure in Wonderland 不思議の国のアリス)
- (3) 婉曲語法(euphemisms), 言い換え (political correctness), 差別と言語(sexism).

課題：

- (1) Oxford English Dictionary を引いて語の歴史を調べます。
- (2) Lewis Carroll の作品，新聞雑誌(Time, Newsweek, Economist など)を調査して，ことば遊びを探したり，自ら作品を創作します。
- (3) ことばの言い換えや同義語について，その存在理由を社会言語学的に分析します。

<英語学概論B>

英語の音，意味，構造に関する言語学の研究成果を概観します。この分野の英語学を勉強する参考文献として，次のようなものをおすすめします。

- 中島平三・外池滋生(1994)「言語学への招待」大修館
中島平三(1995)「ファンダメンタル英語学」ひつじ書房
西光義弘他(1991)「日英語対照による英語学概論」くろしお

<英語学研究 A～E>

私たちが絵を描くときに、「何を書こうか（主題）」「どこから見て描こうか（視点）」「何を目立たせようか（前景）」などと考えます。ことばを使うときにも同じように様々なことを考えながら、「ことば」という絵の具を用いて，自分の伝えたいことを表現していきます。この科目では，このような観点からことばが持っている仕組みを探っていきます。主なトピックは以下の通りです。

- ・主題と陳述 何について話しているのか。
- ・新情報と旧情報 聞き手は何を知っており，何を知らないだろうか。
- ・視点 どんな立場からできごとを眺めているのか。
- ・前景と背景 何を目立たせるか。
- ・モノとコト モノ的とらえかたとコト的とらえかた。
- ・他動性 エネルギーの流れはことばにどう表れるか。
- ・イベント構造 出来事のどの部分がことばに反映されるか。
- ・情報単位 人間はどのようにことばを処理しているか。
- ・帰属意識 地域差，階級差，性差はことばにどのように現れるか。
- ・鏡としてのことば 社会はどうか表現されているか。

また，この科目の中には，英語の構造や語法を考察し，高校までの英文法では気づけなかった英語の特徴を探るものがあります。英語の構造に関する英文法の典型例は「5文型」ですが，5文型では扱えない文があることは皆さんも感じたことがあるでしょう。たとえば **There is some cake left for you on the table.**などは第何文型でしょうか。また，**She put it on her desk.**の例で，

on her deskはこの文にとって必須なので、副詞として片付けるのは問題です。このように、この授業では、高校では学習の便宜上顧みることがなかった英語の面白い現象に注目します。

<英語史>

時間軸（および空間軸）に沿ってその流れを辿りながら、今日私たちが用いている英語という言語の発展を全体として理解するのがこの科目です。言語はヒトの脳の中に蓄積されはしますが、ことばを誘発する要因は多くがヒトの外側に、つまり外的要素として存在します。有用な概念は言語化され、後世へ引き継がれます。あるものは死語となり、あるものは生き延びます。あるものはもとの意味を失い、新たな意味を獲得します。長生きするものもあれば短命なものもあります。政治、経済、文化、社会集団などありとあらゆる環境因子が15世紀前の「古英語」を「現代英語」へと作り変えてきました。

英語のもとになる言語を話していた民族がブリテン島に入って来て15世紀以上が経過します。文献でその姿を確認できるようになってからの歴史はおよそ10世紀。この間の英語の歴史を簡単に振り返ります。英語は文法構造と基礎語彙をゲルマン語族から、それ以外の語彙・熟語を主にロマンス語族から、受け継ぐことにより、今日の姿に辿りつきました。その間に遂げた大きな変容を、文法、語彙、音声について概観します。同時にそのような変化が、どのような歴史的事実と関わってきたかを考えます。例えば、アメリカ英語の歴史を見ると、基礎はエリザベス朝時代のイギリス英語に由来しますが、黒人英語や移民たちのことばも現代のアメリカ英語に大いに貢献しています。また、旧植民地や国連から発信される多国籍英語という新たな潮流も現代の歴史として忘れることはできません。（BBC制作のビデオを中心に概観）

The Oxford English Dictionary を引きこなすことで、英語の変遷を追体験してみます。またベオウルフ（古英語）、チョーサー（中英語）、シェークスピア（初期近代英語）などの原典に当たり、現代英語との違いを比較対照します。古英語、中英語による「復元」音声も聞きます。

教科書 Melvyn Bragg *The Adventure of English—the Biography of a Language*. The Oxford English Dictionary は特に参照してほしい推薦辞書です。

<英語学講読>

英語学の分野の文献を読み、この分野の問題の立て方、研究の進め方、議論展開の方法などを学びます。担当者によって、また年度によって扱う具体的テーマは様々に変わりますが、一例として、Leech (1987)におけるような複雑な助動詞の意味の分析が挙げられます。

2.3. コミュニケーション科目

多岐に渡るコミュニケーション学ですから、すべての理論、概念を習得することはできませんが、本学ではこの学問の中でもメジャーの部分を選びすぐってカリキュラムを組んでいます。基本的には、以下の流れでコミュニケーション科目を履修することを考えてみてください。各科目の内容を読んで、選択科目を履修するかどうか、参考にしてください。

- 1年次：まずは必修科目の「コミュニケーション学入門」で「コミュニケーション学」に触れてみてください。
- 2年次：「コミュニケーション学基礎演習A・B」（選択科目）でコミュニケーションについて理論的な理解を深めましょう。

3年次：4年次の「演習」にむけて、専門的に深くコミュニケーションについて学んでください。コミュニケーションで「演習」を受講するならば、以下の4つの選択科目をなるべく多く取ることが望ましいです。

- 「対人コミュニケーション論」
- 「異文化コミュニケーション論」
- 「パブリック・スピーキング」
- 「マスコミ論」

4年次：「演習」（オルソン・宮原）でコミュニケーションを極めましょう。

<コミュニケーション学基礎演習 A（理論）>

「コミュニケーション学入門」で学んだ基礎知識を、専門的な立場からさらに深く掘り下げていきます。特に、この科目では、コミュニケーション学の主な理論を扱います。まず、「理論」とは何か、なぜ理論を学ぶのか、という疑問点から入ると、わたしたち人間が日々の生活の中で不思議に思ったことに対して答えを出す過程そのものもコミュニケーション、という答えに行き着きます。国内外で発表される最先端のコミュニケーション研究に基づき、みなさんが日頃の人間関係で疑問に思ったり、悩んだり、不安を抱えていることを、「科学的」にとらえることを習慣付けられれば、と考えています。

<コミュニケーション学基礎演習 B（研究法）>

世の中で起こるさまざまなことに、「どうしてだろう」という疑問を持ち、文献を読んでこれまでに提示されている理論や概念を元に、自分でデータ収集の方法を考え、実行し、疑問点に答えを出すのもコミュニケーション活動です。この授業では、必ずしも一つの正解があるとは限らない、人間のコミュニケーションに関する研究を行うにはどのような方法があり、それぞれの方法にはどんな特徴があるのかを考えます。演習を通して、研究を行うことの大切さ、難しさ、そして楽しさを体得します。

<対人コミュニケーション論>

コミュニケーション学に関心を持つ、3年生以上の学生の皆さんが履修する科目のひとつです。この科目では、対人コミュニケーション論（コミュニケーションと人間関係との関係）に焦点をあて、対人関係がどのようにコミュニケーションを通して形成され、発展、維持、崩壊して行くのかについて詳しく探求します。中でも、自己開示と人間関係の発展、人間関係の発展と崩壊のプロセス、対立処理と人間関係の維持などについて深く学びます。日本語・英語にかかわらず、皆さんの日頃の人間関係の管理についても振り返っていただき、より建設的な人間関係を作り、発展、維持して行くことができるように、実践的な応用も目指します。

<異文化コミュニケーション論>

英語専攻の学生として、当然英語を使って「異文化」の人と上手にコミュニケーションしたいと願っていることでしょう。しかし、「異文化」の人と上手にコミュニケーションするには、まず自分の身の回りの「異文化」の人たちと、どのように自分が関わっているかについて見直すことが必要です。そこで、この科目では、「異文化」を広くとらえ、国籍・民族・言語が違う人たちばかりでなく、皆さんの身近に存在する障碍と共に生きている人たち、性の違う人たち、経済力の違う人たちなど、様々な「異文化」の人たちに目を向け、そこに存在する偏見や差別について考えます。様々な「異文化」の人たちの生の声を書かれたエッセイを読んだり、体験的なエク

ササイズやシュミレーション・ゲームなどをしたりして、理論的な理解だけではなく、心から異文化コミュニケーションの問題点について学んでいきます。授業の最後では、それまでに学んだことを英語による異文化コミュニケーションに応用し、真の「国際人」となるために建設的な異文化コミュニケーションを探求していきます。

<パブリック・スピーキング>

コミュニケーション学の中で一番歴史が長い分野はレトリックで、パブリック・スピーキングはその基礎的な能力を身につける実践的な科目です。英語を使って「公的な場でスピーチをする」という前提のもと講義を進めます。スピーチの作成・発表過程の中で多文化に渡る共通の要素も多いので、他授業のプレゼンテーションの時、また将来、職場その他の状況でスピーチをする際、この能力を発揮できればと考えます。

<マスコミ論>

マスメディアの歴史・発展をはじめ、現在の新聞、テレビ、ラジオなどのありかたを中心に、いろいろな観点からマスメディアに目を向けます。我々は「マスコミで作られた世界」に存在しているとよく言われています。ニュース・テレビ・ニューメディアなどの現状をみつめながら、そのメディアがどのような影響を与えているかを考えます。理論的な知識を得る上で、マスメディアに関して疑問を持ち、その「世界」から一歩出て考える習慣が付けられれば、と考えています。

<コミュニケーション特殊講義>

他のコミュニケーションの科目では扱うことが困難なトピックや、集中講義のために設けられた科目です。コミュニケーション論やコミュニケーション講義で取り扱えない分野について開講されることが多く、過去には、非言語コミュニケーション、対立とコミュニケーション、組織コミュニケーションなどについて開講されました。

2.4. ビジネス英語科目

<ビジネスコミュニケーション入門>

授業の到達目標及びテーマ: この科目は、ビジネス英語諸科目の入門として位置づけ、ビジネスコミュニケーションの基本的枠組みを提供します。英語を母語としない日本人にとって、国際ビジネスを中心とするさまざまなビジネスシーンで必要となる英語能力とコミュニケーション能力を高めるために、ビジネスコミュニケーションの諸相について講義し、グローバルビジネスにおける異文化理解を深めます。

<国際ビジネス>

ビジネス英語諸科目の背景的知識を得るための基礎科目です。グローバル社会と言われる今日、私たちの日常経済生活は何らかの形で国際ビジネスと関係がありますし、将来ビジネス界で活躍するためにも貿易、国際取引の仕組みを理解し、それらに関する英語の用語、概念についての知識を身に付けることはきわめて重要です。海外市場の見つけ方、国際取引の交渉の仕方、国際契約と法務、外国為替、国際ロジスティクスなどの理論と実務について、ビデオ、パワーポイントなどを利用しながらわかりやすく講義します。

<ビジネス英会話>

普通の英語のスキルが向上してかなりのレベルに達すると、それはビジネス英語のレベルということができるでしょう。この科目ではビジネスのいろいろな場面で必要になる基本的な英語表現を習得することを目的とすると同時に、ビジネスの世界で効果的な異文化コミュニケーションを図るためのビジネスマナーについても学びます。

<ビジネス英語>

国際ビジネスコミュニケーションにおいて重要な役割を果たすビジネス英語に習熟することを目的とする科目です。英語専攻のビジネス英語は、貿易を軸にして、主として商社またはメーカーの輸出部門の立場から、海外市場の見つけ方（調査機関など）、国際取引の交渉の仕方、国際契約と法務、外国為替(金融機関)、損害保険(保険業界)、国際ロジスティックス(運輸業界)、行政機関への認可申請・届出などについて、理論と実務を、ビデオ、パワーポイントなどを利用しながらわかりやすく講義します。この貿易を中心とした各業界・機関の相互関係を総合・俯瞰する知識の基に、具体的には、国際ビジネスの世界で実際に用いられている英語の内容と特徴を学びます。その上でビジネスレター、e-メールなどの効果的な書き方について指導します。1年間まじめに取り組めば、実践でも使える程度の英語力が身につくでしょう。

<ビジネス英語講読A・B>

ビジネス英語に関する読解力を高めることを基本目的としますが、ビジネスに関する原書、新聞、雑誌の記事を読むことによって、ビジネス界でよく用いられる用語、表現を覚えることにも力を入れます。また単に訳読にとどまらず、記事内容の背景にある関連問題についても解説することによって、現代ビジネスのしくみやニュースで話題になる時事的な問題についても理解と関心を深めるようにします。

2.5. 言語文化科目

<言語文化論A>

西洋の伝統に影響を与えてきた神話や宗教説話を中心に、過去から現代までその物語の意味や解釈を考究します。特に、人々の行動、態度、言語、芸術や大衆文化に対して、それらが与えてきた影響を考えます。異なる文化を理解するためには、その文化の伝統的背景を正しく認識しなければなりません。外国語が理解できる事はもちろん大切ですが、それと同時に、その言語の背景となる考えや知識を身につけることが、文化研究にとっては重要なこととなります。

<言語文化論B>

この授業は、比較文化についてです。日本文化や他の様々な西洋文化についてのイメージや固定観念について考える事から始めます。次に、様々な文化の中で暮らしている人々や私たちは、例えば、庭園や花々、色、食べ物、ファッションなどをどのように捉えているのでしょうか。その使用と反応は、特に考え方や価値観の根底にどのように反映されているのでしょうか。トピック毎に、講義・リーディング・ディスカッションの授業後、グループに分かれ、考えをまとめ、クラス発表を行います。すべての社会において重要であり共通領域である芸術や生活を比較対照することによって、自国の文化についての知識を広くし、造詣を深めることを目標とします。

3. 「演習」(ゼミ)の紹介

ゼミ(seminar)とは“a group of advanced students studying under a professor with each doing original research and all exchanging results through reports and discussions”(Merriam-Webster Online Dictionary)とあるように、学生がそれぞれ独自の研究をし、その研究成果をレポートやディスカッションの形で交換し合うという、大学の授業の中で最も大学らしいものと言ってよいでしょう。授業の正式名称は「演習」ですが「ゼミ」と通称しています。卒業を前にした4年生で受講するもので、3年生までに関心を寄せ、集中的に受講してきた専門分野での知識、あるいは実践的能力の集大成というのが演習の目的です。

3.1. 英語学のゼミ

<藤本滋之ゼミ>

英語学・言語学に関するテーマを学生一人一人が設定し、教員の助言を受けながら独自に研究を進めます。毎年様々なテーマがありますが、「will と be going to の違い」「actually と in fact の違い」といった語法研究、「コソノアと this/that の違い」「足ヲ洗ウと wash one's hands の違いを生む文化論研究」といった日英比較、「宇多田ヒカルの曲の音声学的特徴」「日本語のラップの音韻論的分析」といった音声学的研究が代表的なものです。

卒業論文にせよ、ゼミ論文にせよ、自分の好きなテーマについて独自の研究をし論文にまとめるという体験をしたい人、その体験をもとに進学あるいは留学してさらに学問を深めたい人、あるいは、教員をはじめ、深めた学問を使って仕事したいという人に特にお勧めのゼミです。同一年度に提出された卒業論文数は最大8本、その年に発行したゼミ論文集は1ページにぎっしり詰めても300ページに達しました。先輩たちが積み重ねてきた研究業績は、後に続く学生にとって大きな刺激になっています。

<樋口 功ゼミ>

演習題目：英語教師を目指す学生のための実践的準備講座

本演習では、教育実習、採用試験に自信を持って臨み、教員として着任した後も自力で問題を解決できるよう、実践的な指導を行います。具体的目標は以下の通りです。

1. 実践的教授法、指導案作成法、教材作成法、評価法など、英語教師に要求される基本的なスキルを養成する。
2. 英語教師にとって不可欠である体系的な英語の知識・スキルを養成する。
3. 優れた英語教師にとって不可欠である、(英語教育を目的とした)言語分析の方法論・調査法を習得する。

<伊藤彰浩ゼミ>

演習題目：「ことばの学習・獲得を科学する」

私は応用言語学と呼ばれる学問を専攻しています。具体的に説明すると、日本人が英語を第2言語として学習・獲得する際、どのようなプロセスを経験するか、そしてその測定・評価方法としてのテストはどうあるべきかについて興味を持っています。現在、私は英語の関係節の学習・習得研究、日本人幼児の日本語文の獲得、TOEIC®事務局助成金を得た TOEIC®の信頼性と妥当性に関する研究を遂行しています。日本人共通の英語学習における困難点はあるの？日本人と英語母語話者はことばの獲得の過程が違うの？みんなに効果のある英語教授法はあるの？

TOEIC®は日本人英語学習者の能力を正しく測定しているの？など、日本の英語教育に関連する諸問題に少しでも興味ある方を大歓迎します。ゼミでは学生個人の興味関心を最優先します。自分の興味のある分野を集中的に勉強して論文にして残したい方、英語教育関係の学会や研究会を覗いてみたいひと、将来、教職関係の仕事につきたい方と一緒に勉強したいと思います。

<川瀬義清ゼミ>

演習題目：「ことばと認識—私たちは周りの世界をどのようにとらえているか」

私たちは自分の身の回りにあるものや起こったことを、ことばを用いて様々に表現することが出来ます。たとえば、友達との待ち合わせで 15 分待たされたとしましょう。このときあなたは「15 分も待った」と言うでしょうか、それとも「15 分しか待っていない」と言うでしょうか。この二つの表現は、客観的には「15 分」という同じ時間を、「も」を使うか「しか」を使うかで異なる捉え方をしていることを表しています。このように、ことばは私たちの物事の捉え方を反映しています。

認知言語学では、ことばを人間の認知の表れであると捉え、話し手が世界をどの様に概念化するかという観点からことばの問題に取り組んでいます。ゼミでは認知言語学について概観した上で、プロトタイプ、イメージスキーマ、参照点モデル、言語の身体性、ことばとエネルギーの流れなどについて研究します。

前期はリサーチスキル、プレゼンテーションスキルを学びながら、研究テーマの絞り込みを行います。後期は各自の研究テーマに基づき研究発表、討論を行います。

<久屋孝夫ゼミ>

「言語に隠れされた人間の意図を探る」をテーマにした演習です。

言語は事実や情報を交換するだけではなく、それ以外のいろいろな何かを伝えたり受け取ったりする機能役割を果たします。ゼミでは、後者の、情報交換以外の機能を、特定の表現形式を用いる隠された意図を推察しながら、分析します。print media や advertisement などから用例を収集し、何度かの間発表を経て、最終的に辞書に編集します。この機能リストには以下のものが含まれます。

- 1) 「婉曲的/美化的/欺瞞的」機能：(die の意で) pass away；(fire[首を切る] の意で) downsize[削減する]；(war の意で) affair[事態]， incident[事件]を使う意図はなにか？2) 「露悪的/偽悪的」機能：女性を動物になぞらえ、俗語で bitch, pussy, vixen などと呼ぶのはなぜか？
- 3) 「儀式的」機能：人が出会うとき、 How are you? Lovely day! G'day など(情報的に重要性のない決まり文句【挨拶言葉】)を使うのはなぜ？
- 4) 「修辭的」機能：a mountain of work[山成す仕事]， cool as a cucumber[キュウリのごとく平然として]などの誇張的表現や比喩表現を使う訳は？
- 5) 「詩的」機能：September 11, 2001 の World Trade Center でのテロリズムを報道した週刊誌 Time のヘッドライン “Mourning in America” [喪中のアメリカ]の下線部にはどんなことば遊びが隠されている？
- 6) 「創作的」機能：香水を扱う店名が Perfumania だったり、子どものおもちゃを扱う店が Toysarus だったりするのはなぜ？

この演習は、まさに大学での学びへの知的チャレンジだと自負しています。以上のトピックに興味あるみなさんの積極的な参加を待っています。

3.2. コミュニケーションのゼミ

<宮原 哲ゼミ>

宮原ゼミでは、主に対人コミュニケーションの分野を扱います。携帯電話、インターネットなどの普及によって、情報伝達の効率性は劇的に進化していますが、その裏では面と向かった相手とのコミュニケーションがうまくいかない人たちが急増しています。ヒトとして生まれてきた私たちですが、ことばや、ジェスチャー、顔の表情などの非言語メッセージを使ってコミュニケーションをして初めて人間へと成長することができるのです。コミュニケーションはヒトと人間との境界線、という考え方を原点としてこのゼミを進めていきます。人間がことばや非言語を使って、「自分」を相手に伝えること、その前に、そもそも「自分」とはどうやって知ることができるのか、という疑問点から始めます。人との関わり合いを通して自分を見つけ、見つけた自分をどのように生かしていくか。そして、生き方を明らかにするのがコミュニケーション哲学です。一人ひとりの学生が自分の生き方を模索できるようにお手伝いするのが宮原ゼミのモットーです。対人コミュニケーションは卒業後も一生続けることですから、当然就職、結婚、子育てなどさまざまな状況で役に立つ知識、能力です。卒業生は、外交官、教員、公務員、新聞記者、旅行添乗員、営業職、事務職など、個人の関心によってさまざまな場で活躍しています。

<Duane L. Olson ゼミ>

「公的コミュニケーションの分析・批評」

オルソン・ゼミはレトリックの分野を中心に進めます。「rhetoric」という古い学問は日本語で「弁論術」とよく訳されます。その語が示唆している、説得力のあるメッセージの作成はもちろんですが、それよりも、オーディエンスの立場から公的なメッセージを見ていきます。公的に発せられるメッセージから避けることができない現代社会のわれわれにとって、それらのメッセージをどう受け止めたらいいか、どういうふうに私たちを説得しようとしているのか、みなさんと考えます。基本的なレトリック理論と、学生各自の研究プロジェクトによって、いろいろなメッセージの分析法も勉強します。大切な目標の一つとして、ゼミを通して、公的メッセージに接する時、受身的ではなく、積極的なオーディエンスになることを、大切な目標の一つとして掲げます。

3.3. ビジネス英語のゼミ

<福田 靖ゼミ>

3年次までにビジネス英語関連の科目を比較的多く履修し、英専のビジネス英語コースを専攻したと自覚したい人のための演習（ゼミ）です。英語はあくまでもコミュニケーションの手段であり、コミュニケーションは、それ自体が目的ではなく、仕事を効果的に遂行するための手段です。つまり、企業やビジネスはコミュニケーションによって動いていますが、ビジネスが成功したり、失敗する時にどのようなコミュニケーション上の問題が生じるのか、そしてそれを改善するためにはどうしたらいいのかなどについて、共に考えてみたいと思います。「ビジネス英語研究ゼミ」のテーマは毎年少しずつ変わることがありますが、基本的には英語とビジネスの知識を身につけて、よりすぐれた国際ビジネスコミュニケーターとしての技能の修得を目指すのがねらいです。研究テーマを自分で選んだり、ビジネスプレゼンテーションをまねて学友の前で発表したりとアクティブな学習が期待できます。限られた時間と、単位数ですが、うまく使えばその何倍も、多くのものが得られると思います。なお最新のゼミテーマについては英語専攻のホームページ

ジ(<http://www.seinan-gu.ac.jp/eisen/>)をご覧ください。

<武井俊詳ゼミ>

「英文ビジネス記事の読解マニュアルの作成」が武井ゼミの GOAL です。この作業は、読解とはどういうことかを再認識するとともに、社会で、人々に何かを紹介・発表する際の効果的な技術や、発想を身につけるのに結びつきます。

前期は、この目標達成の準備の為にいくつかの英文ビジネス記事の精読をします。その精読の内容の例として、「なぜ、この単語や表現を用いているのか。」例えば、「その表現はギリシア神話のナルシスの話を踏まえている」とか、「最近のヒット映画のスパイダーマンを踏まえている」とか。あるいは、「筆者は何を譬えにし、その譬えで何を意図しているか」、「この表現の意図をできるだけ正確に理解するには、どんな文化的背景や世間知（当該文化の常識）を踏まえる必要があるか」なども研究の視野に入ります。参考文献やインターネットを活用して、その記事に出てくる企業・製品またはサービス、登場人物について、それはどんなもの(人) か等を調べます。

後期は、自分が作成するマニュアルの対象となる英文ビジネス記事について、草案を発表し、同僚の学生や武井から批評や提言を受けます。その批評や提言を参考にして、読解マニュアルを洗練していきます。1月末の締め切りまでに、ワードで読解マニュアルを作成し、電子メールで提出します。そのマニュアルには、語彙の解説、全文の試訳、より正確な読解に必要な注釈や写真やグラフなども織り込みますし、参考にした文献やインターネットの URL なども示して、読者が確認できるようにします。

卒業式には、各自が作成したマニュアルを CD にしたものをゼミでの達成の証として渡します。ゼミの最初に、見本（前年度の武井ゼミの成果を記録した CD から）を提示し、「英文ビジネス記事読解マニュアル」とはどんなものかを示します。

<清宮 徹ゼミ>

清宮ゼミでは、組織おけるコミュニケーションが中心的なテーマで、ビジネスとコミュニケーションという2つの側面を勉強していきます。とくにディスコース分析という新しい方法を使い、社会問題を含めた組織とビジネスにおける諸問題を、「組織ディスコース」というアプローチで探求していきます。普段当たり前と感じている社会とビジネスの前提がどのように成り立っているか、知の形成過程を解き明かすことを目的にしています。

ゼミ全体としては、ここ数年、企業の広報（とくにコーポレート・コミュニケーション）や情報共有の問題、危機管理、組織の不祥事について勉強しています。個人研究として、自分の興味と関心をもとに、社会とビジネスの問題について実践的調査を実施してもらいます。この過程を通じて、大学生としての知識と視野を広げてもらいたいと願います。最終的には、4年間のまとめとして、論文の形式で発表してもらいます。個人研究を含め、ゼミで研究したことは、インターネットからの配信や外部団体などでのプレゼンテーションを実施し、積極的に社会にフィードバックしていく予定です。また、人前で自分の考えを明確に表現し、相互理解を高めるコミュニケーション能力、交渉、プレゼンテーション、問題解決や職場の人間関係の向上などのビジネススキルも習得してもらいます。

勉強以外の楽しい会も盛りだくさんです。旅行やゼミの懇親会、クリスマス・パーティー、トヨタの工場見学など、いろいろなことを企画しています。

最後にみなさんへのメッセージです。「いま、グローバル化という流れの中で、世界中の企業が大きな転換点を迎えています。私たちが常識と思っていることは、どんどん変わっていきます。まず、常識を疑うことから始めましょう。国際的な視野と歴史的な観点から、問題に関する感受

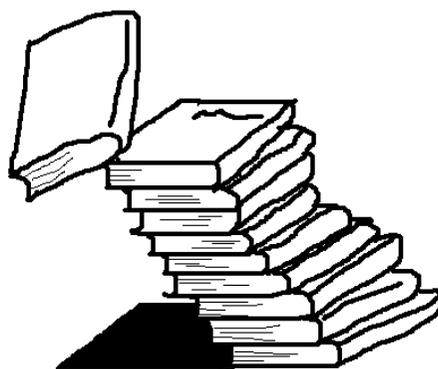
性を高めてください。これからの社会と職場が良い方向に向かうため、組織コミュニケーションはますます重要になってきます。」

3.4. 言語文化のゼミ

<Cindy L. Daugherty ゼミ>

「日本の文化 in Western Culture」

この演習では、19世紀から20世紀前半の西洋(ヨーロッパ及びアメリカ合衆国)において、日本美術がどのように文化的借用をされたか、絵画・工芸・建築物などを例に取り上げながら研究します。この研究を通して、日本文化に対する固定観念は過去に形成されたにもかかわらず、現在も息づいていることが分かるでしょう。日本文化に関する日本と欧米での異なる見方を学ぶことは、外国の人に日本文化を説明する際に役立つだけでなく、外国の文化を理解する際の手助けにもなります。また、日本国内外の美術展をいっそう興味深く楽しむことができるように、受講生の美術鑑賞力向上も目指します。



第2章 すぐに役立つ勉強情報

1. 辞書情報

1.1. 英語を書くときに役立つ辞書

英語で文章やスピーチの原稿を書くときに最も役に立つ辞典は活用辞典です。「研究社新編英和活用大辞典」、Oxford Collocations Dictionary for Students of English, The BBI Dictionary of English Word Combinations (John Benjamins)の3冊がおすすめですが、研究社と Oxford の活用辞典は電子辞書にも収録され便利になりました。この辞書を使うと、たとえば「問題に取り組む」と言いたい時に、**problem** をひくと、**address, approach, attack, combat, handle, tackle, treat** を使えることがわかります。また、「厄介な問題」と言いたいときに、**problem** を修飾する形容詞としてどのような語が適切かを教えてくれるのも、この活用辞典です。これを使いこなせば、英語で文章を書いたりスピーチの原稿を考えたりするのが楽しくなるはずです。

英語を書いたりスピーチの草稿を練ったりするときに有益なもう一つのタイプの辞書に、同意語辞典（シソーラス）があります。英語では、文章にせよスピーチにせよ、同じ概念や趣旨を何度も繰り返して述べるのが少なくありません。このような場合、同じ概念・趣旨を異なる語句で表す必要があります。このとき、同意語辞典は実に便利な辞書です。これも電子辞書に入っていますので、ぜひ使ってみましょう。また、次のサイトでも利用可能です。

<http://www.m-w.com/> (Merriam Webster 社のサイト: Thesaurus と Webster's Collegiate Dictionary の両方を同時に使える便利なサイト。)

<http://www.thesaurus.com/> (一つのサイトで複数の同意語辞典が使えて便利。thesaurus は treasure(宝)と語源が同じで「ことばの宝庫」の意味。)

英語を使う上で有益な三つ目のタイプの辞書として引用句辞典があります。英語の文章やスピーチでは、有名な引用句をそのままあるいは一部を変え、冒頭で用いて読者、聴衆の注意を引いたり、最後に用いて印象に残るような終わり方をするということがよくあります。いくつかのサイトがありますが、次のサイトが最もおすすめです。

<http://www.bartleby.com/99/> (Bartlett や Simpson など代表的な引用句辞典のほか、Brewer's Phrase and Fable (ブルーワー名句・伝説辞典) など、関係する主要な辞典がこのホームページを開くだけで同時検索できます。)

英語を書くというときに誰でもすぐに思いつくのは和英辞典ですが、一押しは「英辞郎 on the Web」(<http://www.alc.co.jp/>)です。電子辞書所収の従来型の和英辞典とは比較にならない情報量です。オンラインで利用できない場合は CD-ROM 版があります。

最後に、英語辞典（英英辞典）の利用をおすすめします。単語や熟語の意味や使い方を確認するには英和辞典では不十分です。その理由は二つあります。まず、英和辞典では正確な意味を確認できないことがあります。たとえば **lip** と「唇」の違いなど、体の部位を表す語の違いがその代表です。もう一つの理由は、同意語の中から最も適切な語を選ぶ

ときに、英和辞典では役に立たないことが多いという事実です。たとえば、「変な」に相当する英語として **strange, peculiar, odd** を思いついたとしましょう。英和辞典にも同意語間の違いの説明が掲載されている場合がありますが、英語辞典の語義の内容と配列にはかたがたありません。たとえば前掲の英語辞典(<http://www.m-w.com>)で **strange** を引くと、”not previously known, seen, heard, or experienced; unfamiliar”という **strange** の最も基本の語義と、その語義に最も近い同義語を最初に記載しています(語の歴史に従い、これより古く今は使われていない「異国の」という意味を最初に載せていますが、これは除きます)。そのあとに、”unusual”や”extraordinary”という実際によく使われる語義を記載していて、この語義配列を見れば、**strange** がもともと「今までに一度も見たこと、聞いたこと、経験したことがない」という意味で、そこから「変な、奇妙な」という意味を派生したことがわかり、同意語の中から選択するときの大きな助けになるでしょう。前掲(<http://www.m-w.com>)のほか、次のサイトをおすすめします。

<http://dictionary.cambridge.org/> (Cambridge University Press のサイトで、例文で語の使い方を確認できる点がありがたい。Cambridge が出している6冊の辞書を利用して、イディオム、句動詞も検索できる点が実に便利です。)

そのほか、次のようなものがあります。下記4点はどれも優れた英語辞典です。(3)と(4)は「老舗」で定評がありますが、新規参入の(1)と(2)は、老舗以上に内容を豊かにかつ利用者の便宜を図ろうとした力作です。あえて(1)か(2)をおすすめします。詳しくはそれぞれのURLをお訪ねください。

- (1) Macmillan English Dictionary <http://www.macmillandictionary.com/>
<http://www.macmillandictionary.com/aboutthissite.htm>
- (2) Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary
<http://www.cobuild.collins.co.uk/>
- (3) Longman Dictionary of Contemporary English
<http://www.longman.com/dictionaries/>
- (4) Oxford Advanced Learner's Dictionary
<http://www.oupjapan.co.jp/reference/>
<http://www.oupjapan.co.jp/reference/article.shtml>

英語の使い方を教えてくれる辞典類とは別に、レポートを作成するときに便利な情報源として百科事典があります。代表的なサイトを挙げておきます。

<http://www.encyclopedia.com/> (複数の百科事典のほか、通常の辞典、同意語辞典、年鑑(almanacs)も使える便利なサイト)

http://en.wikipedia.org/wiki/Main_Page (多様な言語に対応しており、日本語版も選べます。)

<http://www.britannica.com/> (ブリタニカをオンラインで使える便利なサイト。以前は無料で全文を見ることができましたが、今は各項目の最初の部分しか閲覧できません。しかし、主だったところだけ読めるのでかえって便利な面もあります。)

1.2. 英語が面白くなる個性的な辞書

それぞれに個性的な4つの英語辞書を紹介します。一つ目は、*The Oxford English Dictionary*(オックスフォード英語大辞典)。辞書中の辞書と呼べるものです。最も大部で、歴史上出現した語で記録に残っているすべての語の由来(語形・語源)と意味用法が豊富な引用例付きでわかる辞書です。ただし固有名詞は記載されませんので、念のため。(その際はエンサイクロペディアや Wikipedia を参照してください。) 19世紀後半に企画され、長期間の編集作業が続けられ1930年代に一通り完成し、20世紀後半に付け加えられた新補遺で補い、現在20巻に近い大著です。CDならたったの一枚で電子辞書として扱えますが、先人の知と血と汗の結晶としての全体像を把握するには図書館の書棚の前に立つことです。その辺の電子辞書とは味わいが全く異なります。英語専攻に入ったら、この辞書に出会っておくべきです。

二つ目は押韻辞書 *Rhyming Dictionary* です。辞書の見出しはいつも出だしの文字のアルファ順に並ぶわけではありません。この辞書はお尻の文字の類似性に注目して編集されています。逆順・逆引き辞典とも言います。(このタイプの英語の辞書を真似して最近日本語辞典でも同種のものが刊行されています)。この変な辞書は、詩作をするとき役に立ちます。ラップを作ったりしたい時、ことば遊びをしたいとき、あるいはキャッチコピーの創作にも役立ちます。手元の *The Penguin Rhyming Dictionary* を紹介します。たとえば諺 (Birds of a feather flock together) における feather/together の脚韻 (ライム rhyme) 類音のことば遊びは、この辞書の項目セクション番号 17.402 を見ると解明されます。(手順はこうです：(1) 辞書の後半部分を占めるアルファ順に並ぶインデックスで feather か together いずれかを引きます。(2) そこに明記されたレファレンスナンバーをたよりに前半部分の分類セクション番号のあるページを繰り返します。)すると、そこには以下の語がグループ (-ether/eather で終わる同音語)としてまとめてあります。feather, heather, leather, nether, tether, whether, weather, wether [“castrated male sheep”], together, aweather[nautical term], bellwether[“leader of flock”] (難しそうな単語には定義やレジスターなどの注釈などが付け加えられていますから、それも目安になるでしょう。)以上を見ながら、自分の語彙力を確かめてみるのもよいと思います。-ether/eather で終わる単語いくつか知っているか、友人と競争してみるのも語彙力をつけるひとつの方法だと思います。

同じ系統の、より特殊な辞書として *Dictionary of Rhyming Slang* (押韻俗語辞書) を挙げることができます。ロンドンの Cockney たちが使ってきたことで注目される隠語的な表現ですが、詳しくは実際の辞書を図書館でごらんください。ひとつだけ普通の辞書にも載っている例を挙げておきます。(hit or miss (でたらめの、行き当たりばったりの) ⇔ kiss; trouble and strife (もめごと、災い) ⇔ wife (「災」君) の例で分かるように、前者[2語以上の熟語]の押韻俗語が、後者[1語]の意味として用いられるのが特徴。)

三つ目はクロスワード辞書 *Crossword Dictionary*。クロスワードパズルを解くときに助けになる辞書です。文字数と、頭やお腹やお尻など一部の文字だけがヒントであるような場合、または言い換えられた定義から語を推測する、いわゆる広い意味で同義語を発見する場合などに役立ちます。手元のペーパーバック *New American Crossword Puzzle Dictionary* (Signet Book) を紹介します。中身が三つに分けられています。第1セクションはキーワードをアルファ順にならべ、それに簡単な同義語リストを付け加えたものから成っています。パズルのヒントに active が出てくれば、それを探索のキーワードにして、agile,

alert, brisk, busy, nimble, spry を探し出します。ひとつの語からどれだけ同義語を連想できるかのクイズもできます。第2セクションは意味分類辞書です。いわゆるシソーラス(Thesaurus)形式です。体の部位(a part of the body)というヒントからどのような単語を類推できるか、と問われた場合の答えが、ここでは身体の科学的、体系的、専門的な意味分類リストとなって姿をあらわします。その下位分類の一節(Head, Neck, Trunk, Limbs)では日常的な語彙(arm, ear, eye)からやや専門的な語彙(retina 網膜, nostril 鼻腔, occiput 後頭部, epidermis 表皮・上皮)まで数百語もの単語が文字数の少ない順にアルファ順で整然と並べられていて、小さな辞書なのに圧倒されます。第3セクションは他の辞書と最も違う部分です。文字数によって Two-letter words, three-letter words, four-letter words と3タイプに分類されています。4文字から成る語を推定すると仮定します。ここでは冒頭の位置から、最後の位置まで4つのポジションのどこにアルファベットの特定の文字が出るかによって引くことができます。例えば2文字目に O が出現かつ3文字目に V が出現する単語は以下の通りです。“cove, dove, hova, hove, jova, jove, love, move, nova, nove, rove, wove”(定義が併記されているのでわかりやすい: 例 cove “bay; recess; pass; chap; Gypsy”) ふつうの辞書の見出し語として出てくる four-letter word は取り扱い要注意の slang, taboo 語に属するもの(代表例 f**k, c**t など)で、かつては伏字でしか書けないゆえに、このように婉曲的な「4文字語」という表現になった、いわく付きの歴史をもつ言い回しですが、この辞書では4文字からなるすべての文字列がリストされます。もっと長い単語、語群は同じタイプの別の辞書で調べがつきます。単語1語で3文字(abc)から9文字(zoophytic)、語句で8文字(a bad time)から15文字(youth-club leader)までは以下の辞書などを参照してみてください: *The Modern Crossword Dictionary* (Norman G. Pulsford, Pan Books, London)。クロスワードパズルを解く必要がなくても参照して楽しむことができます。ヒマな人たちがいて変な辞書を作るからいろいろな楽しみが生まれると思っています。(それとも苦しみでしょうか?)

最後に、正統派の辞書に戻ります。Tony Deverson(ed.), *The New Zealand Oxford Paperback Dictionary*(2006, 2nd edition)です。小型ながらNZ英語のエッセンスを理解できる、この辞書でいくつかの表現を引いてみましょう。

まず OE. Overseas Experience の頭辞語(acronym)と説明されています。しばしば形容詞を冠してよく用いられます(the big OE)。NZも小国かつ島国かつ(大陸から見て)離島なので、特に若者が「井の中の蛙大海を知」るために欧州大陸(や隣国のオーストラリア大陸)に「武者修行」に一度は出るのが「通過儀礼」なのだとか。見出し語 overseas experience の定義にはこうあります: ‘a young person’s first overseas trip, esp. to Europe, viewed as an informal rite of passage’. こうしてみると、日本の状況と似ている部分があることに気付かされます。

次に bach/batch. 定義はこうです。[名詞] ‘a small usually simply-furnished house, weekend cottage, etc.’; [動詞] ‘(usually of a man) live alone, cook and keep house for oneself’ 語源が bachelor だと知れば納得できるでしょうか。風光明媚なNZにあるたくさんリゾート地には無数の「控え目」なバッチが並んでいるのを目の当たりにすると実感できるものがあります。

さらに ditch (普通名詞では「溝, どぶ, 掘割」)を調べてみましょう。手元の普通英和辞書には、「イギリス海峡, 北海」あるいは the Big Ditch の形で「大西洋, パナマ運河」と訳されていますが、この辞書に寄りますと, the Tasman Sea(タスマン海, 豪州とNZの間に横たわる海域)を意味します。「溝」が指し示すものが地域によって異なるの

は当然です。

最後に、この辞書の大きな特徴として挙げられるのは、白人多数派の中で少数派の先住民のマオリ人の文化、価値観、言い回しが色濃く反映していることです。たとえば Aotearoa. NZ の国歌は英語とマオリ語の二カ国語で歌われます。マオリ語バージョンの最後に現れるのがこの語です。同じ旋律部分の英語では ‘God defend New Zealand’ となっています(みなさんとほとんど同世代 1987 年生まれ NZ の歌姫 Haley Westenra も CD アルバムの中で歌っています)。Aotearoa は、この島国をヨーロッパ人がオランダ語起源の New Zealand と命名するずっと以前にマオリ語で名付けたものです。語源は ‘long white cloud; long twilight’ 長い[たなびき横たわる]白雲。NZ 国内の旅の早朝遠くに目をやるとよく目に入る光景です。NZ という語よりずっと親しみ愛着を覚えます。Kia ora! はどうでしょう? 知らない者はない, ‘hello, thank you, (as a toast) good health!’ の意味のもっとも日常的に用いられることばです。

他に NZ 滞在中新聞などでよく目にしたものに marae (‘the courtyard in front of a meeting house, focal point of Maori tribal house’, 議会, 祭祀場, 集会所, 貯蔵所コンプレックス), haka (‘a traditional warlike Maori posture dance accompanied by chanting’)[陣を組み歌いながら行うマオリの勇猛な舞踏], Ka mate! (‘opening words of a haka performed by NZ sports teams’ before the start of a match)[ラグビー試合開始の関(とき)の声]があります。Aroha は「愛」(love, compassion, fellow feeling)です。北島にはその名を冠した市もあります。NZ は英語を話す人々だけの単一国家ではないということがここから理解されるでしょう。

世界には、いろいろな英語があります。一口に英語といっても、先住民の智恵や文化を取り入れながら、多様な表現、語彙、熟語、発音、文法形式を展開しています。世界各地の名を冠した英語辞書がいろいろ出版されていますので、興味のある地域の英語を調べてみませんか。オーストラリア英語、カナダ英語、南アフリカ英語、シンガポール英語、カリブ海地域英語...英語を均一、均質のものとしてではなく、多様な英語の集まったものとして感じられるようになると、あなたの力はいつの間にか伸びていることになるでしょう。

2. 辞書以外の英語学習文献情報

英語の達人になるためには、辞書以外に次のような文献に親しむことをおすすめします。

一つは英字新聞です。英字新聞を毎日読んで現在の世界の動向の情報を英語で取り入れることにより、現代の出来事の英語表現に親しむことができます。親しむとは、現代の出来事を話題に英語でコミュニケーションできるようにするという事です。英字新聞としては *The Japan Times* の定期購読をおすすめします。インターネット版の URL は <http://www.japantimes.co.jp/>。また、同社の学習者向け週刊新聞 ST もおすすめです。

二つ目はギリシア・ローマ神話や聖書物語です。英語文化の基本の一つはギリシア・ローマ神話であり、聖書です。例えば Trojan Horse という表現を知っていますか。よく使われます。最近のブラッド・ピット主演の「トロイ」という映画にでてきました。現代や未来を話題にした映画やテレビドラマ、そして TIME や NEWSWEEK をよく理解するためにも、これらの物語の知識は欠かせません。具体的な文献として下記をおすすめします。

Edith Hamilton: *MYTHOLOGY, BACK BAY* (First BACK BAY Paperback edition, 1998) これはギリシア・ローマ神話の代表的なものをかなり網羅的に扱った参考書です。

3. 「ビジネス英語カタログ」

下記 20 カ条は、すぐに役立つビジネス英語情報です。(詳細について興味がある人は、ビジネス英語部門の各科目を受講することをおすすめします.)

1. 最近のビジネスレターでは full block スタイルが多く用いられる.
2. ビジネスレターでは右揃え(right margin adjustment) にしないほうがいい.
3. proportional font の場合, punctuation のあとのスペースはすべて 1 スペースでいい.
4. 「株式会社」の英語表記は Inc. / Co., Ltd. ですがフランスでは S.A. が用いられる.
5. 「100 台以上」を more than 100 units と書くのは間違いである.
6. user-friendly(使いやすい), one-stop (一度で用がすむ) などの複合語は便利な形容詞として使える.
7. 会社のナンバーワンは president ではなく CEO である.
8. e-mail の cc はもともと carbon copy, そして bcc は blind carbon copy の略であった.
9. E-mail はもともとは uncountable の名詞であるが, 最近では countable の名詞としてだけでなく, emailed, emails のように動詞として使うことも許容されるようになった.
10. subject line にはメッセージを要約したもの, 意味のある件名を書くべきである.
11. 日本語では主語, 人称代名詞は省略するが, 英語では多用する.
12. ビジネス英語の 2 人称代名詞は敬語に訳すとよい.
13. businessman, office lady のような sexist language は使わないほうがいい.
14. bad-news letter のパラグラフィングには BERSC の公式を適用すると有効である.
15. negotiation には手形買取りという意味がある.
16. 契約書の中では, shall は命令, may は判断をゆだねること, will は合意を意味する.
17. grapevine はインフォーマルなコミュニケーションのネットワークとして重要である.
18. ドイツのような low-context 社会では verbal communication に依存する度合いが大きい.
19. 異文化間コミュニケーションにおいては ethnocentrism を避けなければならない.
20. パソコンで仕事に日本語訳, 英語訳を知りたい言葉が出てきたら, Google の「辞郎シリーズ」を引くと便利で速い.



4. TOEIC について

英語専攻では入学時と1年次の終わりに TOEIC IP テスト (団体特別受験制度) を実施し、その成績によってスピーキングスキル I,II とライティングスキル I のクラス分け(各5クラス)を行い、授業の効率化を図っています。TOEIC IP は通常の TOEIC 公開テストと形式・分量 (リスニング 45 分, リーディング 75 分) と同じですから、TOEIC テストがどのようなテストであるか、英語専攻の学生は入学とともに知ることになりますが、次のような参考書を使って鍛えれば、卒業までに 860 点(「Non-native として十分なコミュニケーションができる」とされる A レベルの下限 (財)国際ビジネスコミュニケーション協会 Proficiency Scale より)を超えるのも夢ではありません。その他、多くの問題集が図書館にあります。

「TOEIC Test プラス・マガジン」(リント CD 付きで¥1,380.)

「TOEIC 公式ガイド&問題集」(TOEIC 運営委員会自身が発行している。図書館と LL にある.)

TOEIC スコアは就職の際に有利です。就職活動は3年次の2月から始まりますので、3年次の11月の公開テストまでに自己最高スコアが取れるよう、計画を立てて勉強し受験するとよいでしょう。TOEIC IP テストと TOEIC 公開テストの受験機会は次の通りです。なお、留学を希望する場合は、2年次の8月まで(3年次での留学を目指す場合)あるいは3年次の8月まで(4年次での留学も考慮する場合)は TOEFL の勉強に専念し、その後に TOEIC の勉強を始めるとよいでしょう。

なお、英語専攻では、「TOEFL・TOEIC 演習 A」という1年次科目で、TOEIC の点数アップを狙います。また、就職課では TOEIC 対策講座を7月下旬から8月上旬にかけて開講しており、そのためのガイダンスを1ヶ月前に行っています。他の就職情報同様、就職課の掲示、サイトまたは i-Saints (<http://isaints.qidc.ne.jp/>) でチェックするとよいでしょう。

TOEIC IP テスト : 6月と10月の年2回。学内で受験。受験料は¥3,000。

TOEIC 公開テスト : 福岡は毎年奇数月と6月, 10月の年8回。西南が受験会場になる月もある。教務課で申し込むと受験料が¥1,000 安くなる(¥5,600 弱)。

cf. TOEFL-ITP : 6, 8, 10, 12, 1月の年5回。学内で受験。受験料が格安(¥2,500 程度)

5. 日商ビジネス英語検定

グローバル化の進展により、ビジネス社会での英語は、一部の人だけの専門能力ではなく、誰もが避けて通れないコミュニケーション・ツールになっています。

I T (情報技術) 化の進展、とりわけインターネットの普及によって、海外と国内でのビジネスにおける地理的、あるいは時間的な差が縮小しています。かつて海外との連絡はレター、電話、F A X などで行っていましたが、現在では E メールが主流になり、相手が海外にいても、距離や通話料金、時差を気にすることなくコミュニケーションをはかることができます。

Eメールの場合は、文面が英語で書かれていても、手元で辞書を引ながら記載内容を理解できるといったメリットがあります。加えて、発信者からのEメールの記載内容が送信先に記録として残るので、相手に分かりやすく伝わるような正確な文章の作成能力が必要となり、受信者としても、ある程度の期間内に回答するマナーを身につけておく必要があります。「日商ビジネス英語検定」試験は、書く（Writing）能力（自分が意図したことを相手に英語で正確に分かりやすく伝える）を重視しています。企業で日常的に使用する英語のビジネス文書の作成及び海外取引に関する実務的な内容について、具体的な場面設定に基づいて出題されていますので、ビジネスで求められる英語力の養成に最適な試験です。（以上日商検定ホームページより）

この検定には1級から3級まであり、すべてインターネットを利用して実施されます。本学はこのネット試験の2級、3級試験会場として認定されているので学内で気軽に申し込み、受験が可能です。しかも大学から受験料の補助もありますので他の会場に比べて格安で受けられる点も魅力です。また本学では、キーボード入力の速さを測る「キータッチ2000テスト」も行っています。詳細は教務課でお尋ねください。

6. レポートの書き方

ここではレポート(term paper)の書き方を説明します。これは英語でレポートを書く時だけでなく、英語を読む時、スピーチするとき、そして日本語でレポートを書くときにも有効です。なお、以下の内容を詳しく説明したものとして藤本滋之(2002)『やさしく書ける英語論文』(松柏社)がありますので、これも参考にしてください。

レポートを書く手順は次のとおりです。

1. 序論(introduction)を書く： メイントピックとサブトピック
2. 本論(body)を書く： 各サブトピックを支持する議論を書く
3. 結論(conclusion)を書く： メイントピックとサブトピックを再度要約する

以下、それぞれについて具体例を用いて説明します。

6.1. 序論(introduction)を書く

序論は次のように二つの部分に分かれます。短い場合は1パラグラフで済みますし、長い場合は二つ（以上の）のパラグラフにします。下記は、短いレポートの序論のパラグラフの例です。

現代人の多忙な生活は深刻な健康上の問題を引き起こしている。忙しいとほとんどの人が激しいストレスを感じる。過剰なストレスは胃潰瘍、心臓疾患、ガンなどあらゆる種類の健康障害を引き起こす。ストレスは避けることは不可能だが管理は可能である。

本稿では、ストレスを管理する方法として、規則正しい生活、運動、ストレス交換の三つを考察する。

先に序論の後半の内容を決めます。序論の параграфの最後の部分で、レポートのメインピックとサブピックを表明します。メインピックというのは、そのレポートが「何について」書かれたものであるかということ、サブピックは、その「メインピックについて筆者が言いたいこと」を指します。上記の例では _____ を施した部分がメインピック、 _____ の部分がサブピックです。これは要するにレポート全体の結論にあたるもので、レポートでは日本語でも英語でも、このように最初の параграфで結論を書きます。なお、上記の例を英語で書くと次のようになります。

- (1) This paper considers how you can manage stress by keeping your life regular, by enjoying physical exercise, and by exchanging stresses.

次に、序論の前半を書きます。後半で表明するメインピックを選んだ理由を書くことになります。上記の例では、ストレスは深刻な健康障害の原因になることを述べて対策の必要性を示唆し、最後に対策は立てられることを確認して、後半で具体的な三つの対応策（＝サブピック）を提示するきっかけを作っています。上記の例を英語で書くと次のようになります。

- (2) Busy life in the world today has been giving rise to a serious health problem. Busy life imposes severe stress on almost everybody, from a worker on a high-pressure job to a hardworking student. Overstress can produce all kinds of physical disorders such as stomach ulcers, heart diseases, or even cancers. It may be true that stress cannot be prevented, but it is manageable.

6.2. 本論 (body) を書く

序論ができたなら、次に本論を書きます。序論で宣言したサブピックの一つ一つについて、例を用いて説明したり、具体的に解説したりします。たとえば、上記の序論に対応する本論は、最も短いものでは次のように、一つのサブピックに一つの параграфを使います。

ストレスを管理する可能な方法の一つは生活を時計のように規則正しくすることです。ストレスがたまると「体内時計」が狂ったり止まったりします。体内時計が機能しないと不眠や食欲不振となり疲労回復ができなくなります。体内時計をリセットすることが十分に眠って爽快な気分で起床し、健全な食欲を感じ疲労を回復するためのカギです。決まった時間に起き、決まった時間に寝て、決まった時間に食事を取りなさい。そうすれば体内時計の指針が設定され、2-3 週間もすれば、体内時計とスケジュールが同調するようになります。体内時計はストレス管理のカギを握っているのです。

ストレス管理のための二つ目のお勧めの方法は運動です。楽しくやれる運動の効果の一つは身体的なものです。楽しんでやれる適度な運動をすると、すぐにまた継続して気分がよくなります。運動のさらに大きな効果は心理的なものです。運動している間は気遣い・心配事がありません。従って、運動するときに、懸命に働く脳の神経細胞を休めることができます。神経細胞は、休んでいる間にリラックスして元気を回復し、次に必要なときに正常に機能することができるようになります。また、楽しんでやれる活動は、精神を日常生活の問題以外のものに集中させるので、精神を休ませる効果があります。

ストレスを管理する三つ目の方法はストレス交換です。だれでもストレスを入れる自分の箱を持っていて、その大きさは人によって違います。新しいストレスが入って来た場合、それを入れる箱にすでに前のストレスが入っている場合、新しいストレスを入れるために整理しなければなりません。そうしないと、新しく入って来るストレスが行き場がなくて迷ってしまい、あなたのデスクワークを邪魔することになります。箱を空にするには、入っていたストレスを整理して捨てたり、他の箱に入れ直す必要があります。そうすればストレスの総量を過剰なレベル以下に抑えることができます。これがストレス管理の心髄です。

上記の例の _____ は、いずれも序論の二重下線部と同じメインピック「ストレスを管理する方法」を表します。他方、上記の計三つの _____ は、序論の三つの下線部すなわちサブピックに対応しています。このように、本論の各パラグラフの冒頭では、序論の最後で表明したメインピックとサブピックの一つを繰り返します。メインピックとサブピックを含むこの文は「トピック文」と呼ばれ、原則として本論の各パラグラフの冒頭に配置します（例外については藤本(2002: 2章)を参照）。

トピック文以外の文は、すべてトピック文の内容を支持する働きをしています。上の例では、それぞれ「規則正しい生活」「運動」「ストレス交換」という三つのサブピックが、どうしてストレスを管理するのに有効な方法になるのかが、具体的に説明されています。

上の本論の三つのパラグラフを英語で書くと、それぞれ(3)~(5)ようになります。日本語の場合と同様、二重下線部がメインピック（ストレス管理の方法）、波線部がサブピックを表します。

- (3) One of the possible ways to manage stress is to make your life as regular as clock work. If you are overstressed, your “body clock” cannot keep good time and can even stop. If it malfunctions, you cannot sleep or eat well and thus cannot recover from your fatigue. Resetting your body clock is vital for you to sleep soundly, awake refreshed and obtain good diet, and finally to relieve exhaustion. Give yourself a definite wake up and sleep time; give yourself a fixed mealtime. It sets a frame of reference for your body clock. And in a few weeks, you will be able to synchronize your body clock to your schedule. Your body clock ticking on regularly is a key for managing stress.

- (4) A second recommendable way of stress management is to do enjoyable exercise. One good effect that enjoyable exercise has is physical. Any moderate exercise you can enjoy makes you feel better immediately and continuously. Another more beneficial effect that exercise has on you is mental. You do not worry when exercising. It rests your nerve cells in the brain that work hard when you worry. They can have time, while resting, to relax and restore so they can function normally the next time they are needed. Also, activity you can enjoy concentrates your attention on a subject other than the problems in life, and helps rest your mind.
- (5) The third good way to manage stress is to exchange your stresses. Everyone has his/her own boxes to put stresses in whose size and number vary from person to person. If a new stress comes into your life and your boxes are all full, then you have to empty one of them to accommodate it. Otherwise, the newly arrived stress could go astray to disturb your “desk work.” To vacate a box, you will throw away the stress that has been in there or move it into another box with space available. Then you can keep your total stress level below the overstress point. This is the heart of stress management.

6.3. 結論(conclusion)を書く

最後に結論を書きます。結論も序論同様、次のように二つの部分に分かれます。短い場合は1パラグラフで済みますし、長い場合は二つ（以上の）のパラグラフにする点も序論と同じです。次の例は、先に見た序論と本論に続く結論のパラグラフです。

結論として、ストレスは避けることはできませんが、管理することは可能です。ストレス管理は規則正しい生活を送り、適度な運動を定期的に行い、ストレス交換をすることで可能になります。

ストレス管理は現代社会の多忙な生活を送る人の心身の健康障害を防ぐ最良の方法の一つである。手遅れになる前に、ここで紹介した三つの方法を試しては如何でしょう。

前半では、メインピックとサブトピックを再度示します。序論、本論の場合と同様、の部分がメインピック、_____の部分がサブトピックです。メインピックとサブトピックはこれで計3回述べることとなります。すなわち、序論の後半、本論のトピック文、そして結論の前半の3回です。したがって、大学で書くレポートは、日本語でも英語でも、同じ概念をいかに表現を変えて表すかがカギになります。

結論の後半では、前半の内容（メインピックとサブトピック）に対して簡潔にコメントを加えます。上の例では、前半の内容すなわち三つのストレス管理法について、その実

行を促すコメントを述べて文章を締めくくっています。結論の後半で触れる内容は、レポートのトピックの内容に応じて次のようなパターンがよく見られます(藤本(2002, pp.16-19)参照)。

- ① 解決策を示唆する(論題が問題分析, 現状分析の場合)
- ② 実行の必要性を説く(論題が問題解決法の提案の場合)
- ③ 将来を展望・予測する(論題が現状分析の場合)
- ④ 過去と対比する(論題が現状分析の場合)
- ⑤ 論題の内容に対する評価・意義を述べる
- ⑥ 論題を提示した意義を説く
- ⑦ 残された課題を確認する

上の例は上記②のパターンと言えます。メイントピック・サブトピックがレポートの「骨格」、本論が「筋肉」に喩えられるのに対し、結論の後半部は、序論の前半部同様、いわば「衣服」あるいは「装飾品」に相当します。レポートの文章になくてもよいかと問われれば答は YES ですが、読者(聴衆)に強い印象を残すことができるかどうかを決める重要な役割を果たす部分であることは、間違いありません。

最後に、上の結論の例を英語にすると次のようになります。

- (6) In conclusion, you can manage stress, if not prevent it. Stress management is possible if you keep regular hours, do moderate physical exercise regularly, and exchange stresses. Managed stress is one of the best preventions of physical and mental diseases of busy people living in the modern world. Try the three methods I have introduced before it is too late.

6.4. 参考文献を引用する

大学でレポートを作成する場合、どのような課題の場合も、関連する文献、資料が必ず存在し、それらを引用することなく自分の意見、感想だけを書くということはまったくないと行ってよいでしょう。ここでは、参照した文献の引用の仕方を説明します。

6.4.1. 本文中での引用の仕方

参考文献名は、本文中では、次の例(7)の_____部のように「著者名の姓」と「執筆年」で示します。日本語のレポートの場合は「森(1971)によると……」、「ヘンドリックソン(1997)は……と主張している」のようになります。

また、次の例の_____部は、それらの参考文献から引用した内容を指していますが、これを見てわかるように、引用の仕方は三つに分けることができます。

- (7) The person who coined the term *hot dog* seems to be unanimously identified in the related sources. Morris and Morris (1971) refer to T. A. Dorgan (1877-1929), the best-known sports cartoonist of the era as the godfather of hot dog. Hendrickson (1997), another dictionary of word and phrase origins, also mentions the famous

cartoonist and goes so far as to address our natural question why hot dog is hot dog. It says that T. A. Dorgan “possibly had in mind the fact that many people believed frankfurters were made from dog meat at the time, and no doubt heard (Harry) Stevens’ vendors crying out ‘Get your red hots!’ on cold days.” The name of Tad Dorgan also appears in the National Hotdog & Sausage Council (2004). It describes vividly the background where the name of *hot dog* was born:

The word was coined in 1901 at the New York Polo Grounds on a cold April day. Vendors were hawking hot dogs from portable hot water tanks shouting "They're red hot! Get your dachshund sausages while they're red hot. A New York Journal sports cartoonist, Tad Dorgan, observed the scene and hastily drew a cartoon of barking dachshund sausages nestled warmly in rolls. Not sure how to spell "dachshund" he simply wrote "hot dog!" The cartoon is said to have been a sensation, thus coining the term "hot dog."

Thus it seems to be safe to believe that T. A. Dorgan called hot dog *hot dog* for the first time, and a lot of people in the U.S. and in the world followed him, or his cartoon.

一つ目の引用法は「間接引用」です。例(7)の最初の文献 Morris and Morris (1971)からの引用部分(最初の____部)は、文献の内容を筆者が自分のことばでポイントを要約したものであり、参照文献に書かれた通りに引用しているわけではありません。

二つ目の方法は「直接引用：短い場合」です。(7)の二つ目の文献すなわち Hendrickson (1997)の____部は、文献に書かれている通りに「直接引用」したものです。このように比較的短く引用する場合は、引用符“ ”(日本語の場合は「 」)を使って引用部分を示します。

三つ目の方法は「直接引用：長い場合」です。(7)の三つ目の文献 the National Hotdog & Sausage Council (2004)からの引用部分(三番目の____部)は、二つ目同様、文献に書かれている通りに「直接引用」したのですが、かなり長く引用されています。このような場合は、上例のように、①本文から改行して②行頭を下げ、③文字を小さくし④行間を詰めます。日本語の場合も同様にします。

以上、①間接引用、②短い直接引用、③長い直接引用、の3タイプを紹介しましたが、可能な限り①を使うよう心がけるとよいでしょう。

6.4.2. 「引用文献 (参照文献)」欄の書き方

レポートの最後に、本文中で引用した文献のリストをつけます。下記の例(8)のように、REFERENCES というタイトルをつけ、その下に本文中で引用した文献のフル情報を示します(本文中で引用していない文献は書きません)。

REFERENCES

- Chomsky, N. (1986) *Knowledge of Language*. New York: Praegar.
- Chomsky, N. (2000) “Minimalist inquiries.” In Roger Martin, David Michaels, and Juan Uriagereka (eds.), *Step by Step*, 89-155. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Kiss, K. (1998) “Identification focus versus information focus.” *Language* 74: 245-273.
- Morris, William and Mary Morris (eds.) (1971) *Morris Dictionary of Word and Phrase Origins*. New York: Harper & Row.
- The National Hotdog & Sausage Council (2004) “History of the Hot dog.” The website of the National Hotdog & Sausage Council (http://www.hot-dog.org/hd/hd_history.htm).

文献情報の書き方は、文献のタイプによって異なります。単行本の場合、上記第1例のように「著者名(出版年) タイトル. 出版地: 出版社。」の順に書きます。1冊の書籍に収められた複数の論文の一つを引用する場合は、上記第2例のように「論文の著者名(出版年) 論文のタイトル. 書籍の編者名, 書籍のタイトル, 掲載ページ. 出版地: 出版社。」の順に書きます。学術雑誌に掲載の論文は、上記第3例のように「著者名(出版年) 論文のタイトル. 雑誌名と巻ナンバー: 掲載ページ数」を書きます。最後の例は、インターネット上の website を引用した場合の書き方です。「著者名(出版年) ページのタイトル. サイトのタイトル(URL).」を書きます。

次に、日本語の文献情報の書き方を説明します。例を挙げると次のようになります。

引用文献(参照文献)

- 服部四郎 (1951) 『音声学』 東京: 岩波書店
- 上村幸雄 (1978) 「現代日本語の音韻体系」 松本泰丈編 『日本語研究の方法』 東京: むぎ書房
- 杉藤美代子 (1984) 「日本語の音節(拍)にはどういふ日本語らしさがあるか」 『国文学解釈と教材の研究』 29 巻 6 号
- 杉藤美代子編 (1989) 『講座日本語と日本語教育 2 日本語の音声・音韻(上)』 東京: 明治書院
- 東郷雄二 (2004) 「私家版卒業論文の書き方」 『東郷雄二のホームページ』
<http://lapin.ic.h.kyoto-u.ac.jp/thesis.html>

上の五つの文献のタイプは、それぞれ先に見た英語の五つの文献と同じタイプです。

この文献情報の書き方は、学問分野によって、また同じ分野でも学会誌、学術雑誌によって多少違いますが、皆さんが書くレポートでは、いずれかの書き方に統一されていれば問題ないでしょう。また、「演習」(ゼミ)で書く論文や卒業論文の場合は、指導教員の指示に従ってください。

6.5. サブトピックの立て方

ここまで、レポートの書き方の基本を説明しました。5.1～5.4節の説明に従って書けば、少なくとも形式的にはレポートの体裁をなすものができるでしょう。ここで最後に、レポートに書く内容を考えるヒントを説明します。具体的には、レポートの骨格になるサブトピックの立て方について説明します。

たとえば、レポートの課題が「ホットドッグという食べ物と名前の由来を調べレポートにまとめなさい」だったとしましょう。まず、関連する情報が入手できそうな文献を探します。はじめにインターネットを使って調べるのがよいでしょう。そうすると5.4節で挙げたようなサイトが見つかります。さらに、印刷された従来型の文献にも当たります。辞書類は図書館4階にあります。この種の課題では、前節に挙げたような語源辞典が役に立ちます。文献は必ず複数にあたり、相互に比較検討することが大切です。複数の文献に書かれた内容を比較すると、意外な違いが見つかったりするもので、それがレポートの大切なネタになります。

文献調査が終わったら、調べた内容をもとにサブトピックを考えます。サブトピックの立て方には一定のパターンがあり、次の三つに大別されます(藤本(2002, 第5章)参照)。

- ① サブトピックが時の順に並ぶ
- ② サブトピックがあるものの分類を表す
- ③ サブトピックがあるものとあるものの共通点や相違点を示す

「ホットドッグという食べ物と名前の由来」という課題の例では、具体的にはたとえば次のような論題の例が考えられます。

- ① 「ホットドッグの歴史はA, B, Cの三つの段階がある。」
- ② 「ホットドッグの由来については諸説あるが、A, B, Cの三つの説に大別できる。」
あるいは「ホットドッグがホットドッグと呼ばれるようになった理由として、A, B, Cの三つが考えられる。」
- ③ 「ホットドッグの由来はハンバーガーの由来と比較して興味深い共通点がある。」
あるいは「ホットドッグという食べ物の由来については複数の説があるが、ホットドッグという名称の由来はどの文献も一致している。」

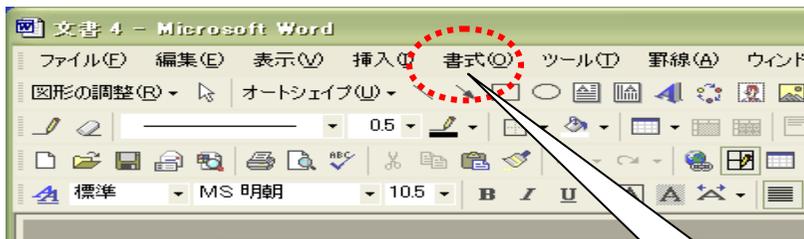
上記①は、文献にあった詳細な説明をもとに、レポートを書く人の目で三つの段階に分けたもので、具体的な内容は文献からの引用になりますが、三つの段階に分けるといふ部分は、レポート作成者が独自に考えたアイデアと言えます。②も、個々の内容は文献の引用でも、三つに分けたり、原因を三つあると主張するのは、複数の文献に当たって相互の違いを分析したレポート作成者独自の考察内容と言えます。最後に、③のように複数のものを比較しその共通点や相違点を分析するパターンは、最もレポート作成者のオリジナリティを出しやすいものであり、おすすめです。

以上、本節では、レポート・論文の書き方を、まず序論・本論・結論に分けて示し、次に、引用の仕方、最後に、レポート・論文の骨格である論題(thesis)の立て方を説明しました。なお、途中で言及した参照文献は<藤本滋之(2002)『やさしく書ける英語論文』(松柏社)>です。併せてご覧ください。

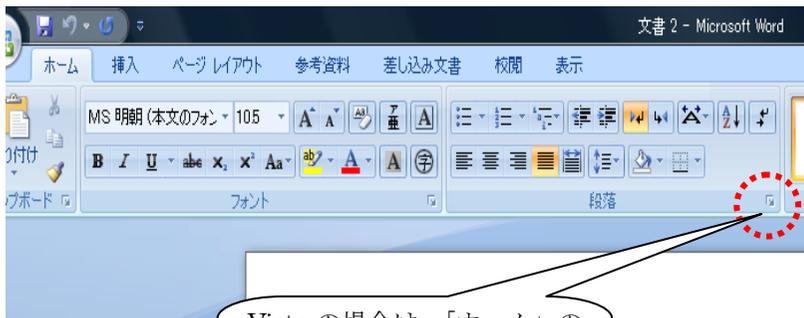
7. 英語(ライティング)の書式設定

英語によるレポートや英作文など、英語のライティングでは特定の書式で書くことが一般的です。大学では、ダブルスペースで書くことが多いので、ここでは以下に、ダブルスペースに書式を設定する方法の一つを紹介します。

① 「書式」のボタンの中から「段落」を開く

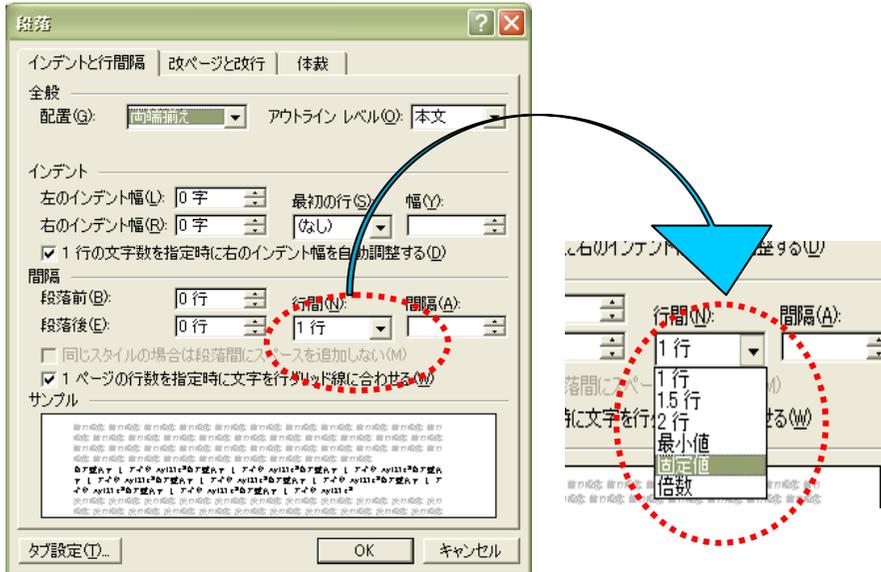


Windows XP の場合、「書式」の中から「段落」を選ぶ。

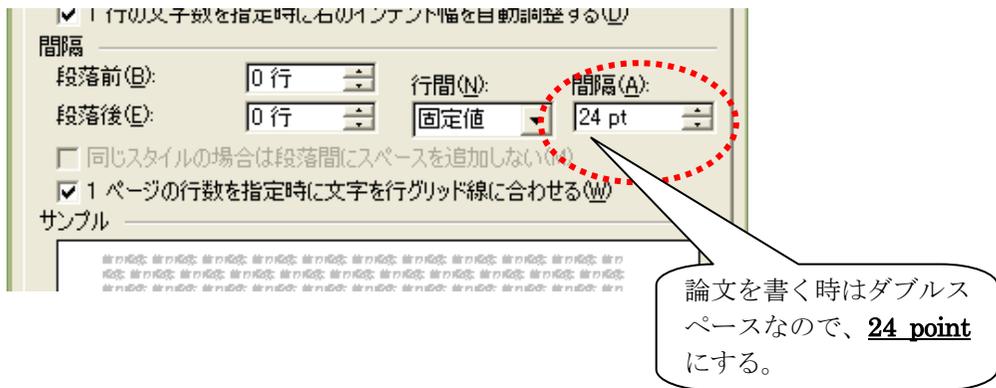


Vista の場合は、「ホーム」の中に「段落」があるので、ここを押す。

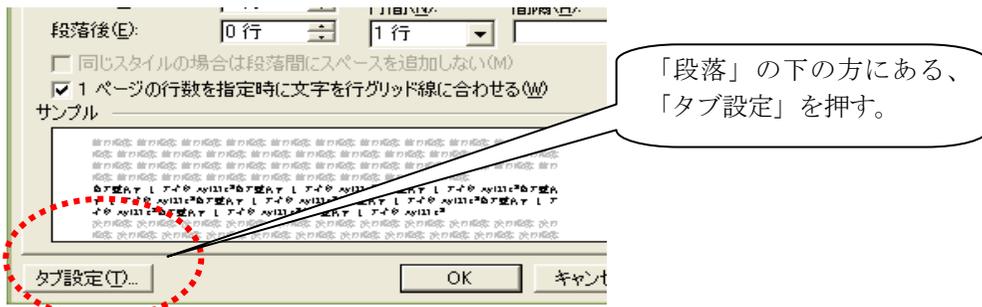
② 「段落」の中の「行間」から固定値を選ぶ。

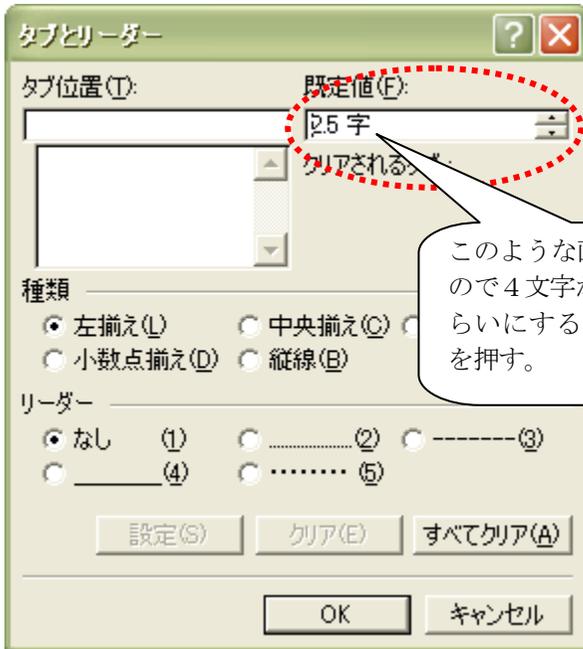


③ 「間隔」を変える



④ タブの設定

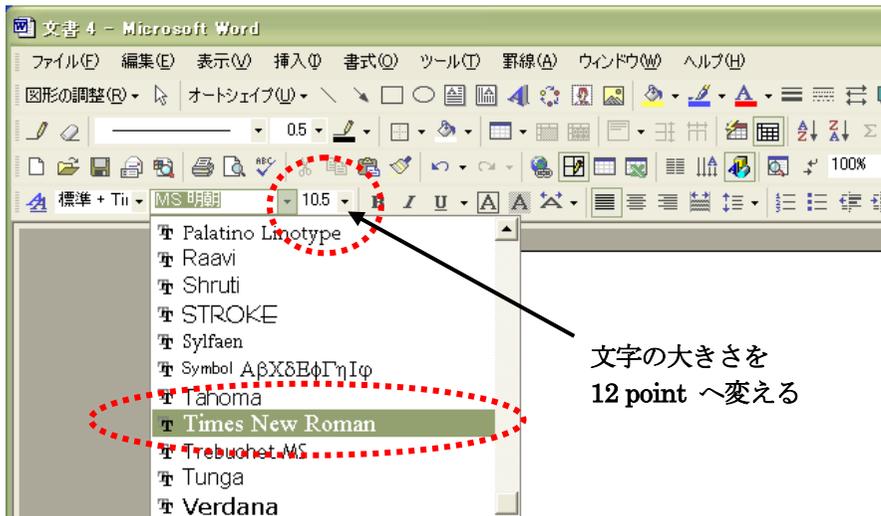




⑤ 書式を変える。

「**Times New Roman**」を探して、選ぶ。

また、文字の大きさを **12** に変える。



第3章 教員・施設・設備

1. 専任教員の紹介

英語専攻担当の専任教員を紹介します。専任教員は研究室にいますが、非常勤講師の先生方は、担当する授業の時間帯だけ「講師控室」(2号館2階教務課右隣)にいます。以下に専任教員をアルファベット順に紹介します。

< Christopher R. Chase (クリストファー・チェイス) >

My name is Christopher Chase. I'm originally from New York in the United States. I'm not from New York City, but from the countryside north of New York, what you would call "innaka." I first came to Japan as an international exchange student many years ago, and studied here at Seinan University for 10 months. I don't want to tell the year I came to Fukuoka, as then you would be able to guess my age.

I fell in love with Japan during my stay here. Later I fell in love with a Japanese girl, and we got married. We went back to America, and I attended graduate school in California. I graduated from Stanford University in 1993, with a doctoral degree in education and psychology.

After graduating from Stanford, my wife and I came back to Fukuoka, and I have been teaching here at Seinan University since that time. It's really nice to be back in Fukuoka. Our two sons were born here. They are funny boys, very funny, maybe too funny. Sometimes my youngest son is so funny at night that he has everyone laughing hysterically, and none of us can fall asleep. It's a problem.

My hobbies are drawing cartoons, reading and writing. I'm interested in science, education, psychology and food. I love eating at restaurants that serve delicious food. I also love movies, art, computers and (most importantly) music. You could say I'm crazy about British and American rock n' roll. I especially like sixties musicians like the Beatles and Bob Dylan. If you put a karaoke microphone in front of my mouth I cannot stop myself from singing.

As an English teacher and researcher I am interested in human motivation and experiential learning, understanding how languages can be learned naturally and enjoyably by children and young people. I hope to write and illustrate some books for language learners, in the future.



< Cindy Daugherty (シンディ・ドーハティアー) >

シンディ・ドーハティアーです。私は、アメリカ、マウントホリオーク・カレッジを卒業後、ガードナー美術館(ボストン)とウォリス・コレクション(ロンドン)で仕事をしました。その後、ロンドン大学で美術史を専攻、日本の美術に大いに興味を持つようになりました。琳派についての研究を続けています。

日本に来てからは、英語教育も私の研究分野に加わりました。大阪大学、九州工業大学で教職経験を積み、2006年から西南学院大学の専任講師になりました。幸運なことに、長く教職に就いています。日本の学生はおとなしいは、偏ったイメージです。西南学院大



学の学生は、積極的に英語を話し、意見を述べます。たのもしい学生達から私はいつも元気をもらっています。

英語演習 I, Speaking Skills II, Writing Skills I, II, Public Speaking, 言語文化論 A, Bを担当します。Speaking Skills のクラスでは、文法・語彙強化に加え、練習に練習を重ねて、自然な英語の発話を目指します。Public Speaking のクラスは、形式を重視します。皆さんが考えを相手に伝える時、どのように考えをまとめ、どのような順序で話せば、相手により良く理解してもらえるのでしょうか— その手順を学習します。この手順を身に付け、「書く」というアウトプットをするのが writing です。Writing I, II のクラスでは、基礎力を付けたあと、最終的には、自分でトピックを決め、

リサーチし、writing のルールを守りながら皆さん自身のしっかりした意見を書くことが目標です。

私自身、日本文化や日本美術に対する理解を深めるだけでなく、英語を教えるという機会にこんなにも恵まれてうれしく思っています。どのようにすれば、学生の皆さんが「もっと英語がうまくなりたい、もっと英語を勉強したい。」と思うのかをいつも考えています。また、楽しいクラスを目標にし、様々なトピックを用意しています。

日本を愛する私の趣味は、自ずと一瞬の美に向いています。ひとつは、日本料理。美しいうえにおいしいのです。本で見ても興味が湧いてきます。残念ながら、今のところ日本料理を作るまでには至っていませんが、もうひとつの趣味は、生け花です。広山流（こうざんりゅう）という流派で、野の草花を使って、茶花のような自然な生け方を習っています。生け花をする時には、私の名前は、萌可（ほうか）です。私の趣味の長所とも短所とも言える事、それは、日本料理も生け花もどちらも「はかなき命」なのです。

<藤本滋之（ふじもとしげゆき）>



高校(修猷館)まで福岡、大学(東京外国語大学英米語学科)と大学院(筑波大学)は関東で暮らしたあと、20年ぶりに福岡に戻り今に至っています。英語、日本語の文および文章の構造と意味を研究し、英語学関係の科目を担当しています。現在の研究テーマは英語、日本語の疑問文の統語構造の歴史的变化についてです。

「英語演習」やライティングの授業で長年やってきたことを『やさしく書ける英語論文』（松柏社、2002）としてまとめ刊行しました。英語の文章と日本語の文章では構造が異なるために、日本語の文章を忠実に英訳しても通じないということがあります。この本における説明と同様、授業ではいつも具体例と図解を使い、英語や日本語でレポートや卒業論文を書く方法を丁寧に説明するようにしています。

ます。

大リーグの試合観戦が趣味ですが、実際に球場で見たのは2回だけです。カリフォルニア大学アーバイン校で1年間勉強しているときに、隣町アナハイム（ディズニーランドのある都市）でイチロー、佐々木、長谷川を見ました。冬には何度かスキーに出かけます。ウェーデルンのこつをやっと覚えたような気がします。高校(小倉)の教員をしているときにサッカーの審判員免許を取得しましたが自然失効でしょう。もう走れません。

<福田 靖 (ふくだやすし)>



わたしは長崎の片田舎で生まれ育った、根っからの九州人です。ただ中学を出ると同時に郷里を離れ、他人の飯を食い、他人の家に住みながら各地を転々としました。それでも福岡の地に移り住むようになってからすでに30年が経ちました。本学での担当科目および専門の研究分野はビジネスコミュニケーション入門、国際ビジネス、ビジネス英語などです。これらの科目について、少しでも実務に即した、実践に役立つような授業をするように心がけてきました。その間ビジネス英語に対する学生の興味と学習意欲の高さはずっと変わっていないことをうれしく思います。国際ビジネスやビジネスコミュニケーションの研究や教育においてはアメリカの影響やアメリカの情報を避けて通るわけには行きませんが、通算2年半にわたるアメリカでの研究活動とアメリカ人家庭での生活体験は今でも貴重な財産となっています。なかでも全長5200mm、4500cc、2ドア・ラグジュアリー・クーペの中古アメ車、80年型Chevrolet(シボレー)“Monte Carlo”での西海岸縦走、LAからテキサス往復をはじめ、アリゾナ、ネバダ、ニューメキシコなど、あちこちに出かけたドライブの旅は、過酷な中にも、美しく広大な自然、さまざまな人種と人情、ユニークなビジネス習慣、社会習慣を知るいい機会であり、生涯忘れられない楽しい思い出になりました。授業では、国際ビジネスにおいては異文化コミュニケーション能力を高めることが重要であることを強調しますが、英語や異文化を正しく理解するためにも、もっともっと日本語や日本の伝統文化を大切にすべきではないかと感じている今日このごろです。

<樋口 功 (ひぐちいさお)>

生まれは、北九州の小倉です。しかしながら、両親が大阪出身であることに加え、15年近く関西に住んでおりましたので、九州弁と関西弁のバイリンガルになってしまいました。大学卒業後は、民間企業に勤めておりましたが、1990年に退社、一年間の準備期間を経て、1991年～1992年にかけて、一年間ニュージーランドに滞在しました。ニュージーランドに滞在中、ビジネス・お金に対する関心を完全に失い、今までの人生を180度向転換、教員・研究者になるべく、1993年に関西外国語大学大学院外国語研究科に入学、1995年に修士号(英語学)、2003年にPh.D.(言語学)を取得しました。専門は、英語学(意味論・英文法・音声学)、日本語学、英語教育です。本学では、英文法、文法論、英語学講読、英語科教育法、英語音声演習、英語演習、リーディングスキルズなどの科目を担当しています。演習(ゼミ)では、英語教師を目指す学生を対象とした「実践的教員養成講座」を開講しています。現在、カナダのバンクーバーにて在外研究中で、ブリティッシュ・コロンビア大学の学生に協力してもらいながら、連日、音声学の実験をしております。趣味は、釣り、料理、ギター演奏(西新のエリック・クラプトンと呼ばれている)等々です。後期からしか、皆様にお目にかかれぬのがとても残念ですが、よろしくお願ひします。



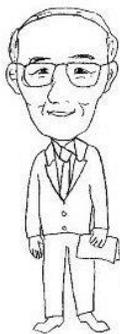
<伊藤彰浩 (いとうあきひろ) >

愛知県豊田市に生まれ、大学在学中に2回の米国留学を経験し、1995年に愛知教育大学教育学部外国語科を卒業しました。その後、広島大学大学院教育学研究科で1997年に修士号(教育学)、1999年に博士号(教育学)を取得しました。愛知学院大学で専任講師、助教授(准教授)、英国ランカスター大学客員特別研究員(准教授)を歴任し、2008年4月に本学に着任し、2009年4月に教授に昇任しました。現在、「英語学」「英文法」「TOEFL/TOEIC演習」「英語科教育法」などの授業を担当しています。専門は応用言語学における第2言語習得研究と言語テスト研究で、ことばを学習・習得するメカニズムに興味を持っています。私たちは生まれてから母語である日本語を幼児のうちに驚異的なスピードで獲得していきます。なぜこのようなことが可能なのでしょうか?その一方で、私たちが学習して身につけようとする対象言語の英語や中国語の獲得には、どうして大変な時間やエネルギーが必要なのでしょう?母語である日本語と第二言語の獲得は根本的に違うものなのでしょうか?この問いに対する完全な答えは見つかっていませんが、現在、言語習得研究に携わる世界中の研究者が様々な観点から研究しています。

私はもともと小学校か中学校の教師になることを夢見ていました。実際に、学部生のときには中学校で約4週間(事前事後研修もあわせると約8週間)、小学校で約2週間(事前事後研修もあわせると4週間)の教育実習も経験し、小学校では1年生に算数の序数の概念を、中学校では中学3年生に主に時制について教えました。絶対に小中学校の教育現場で仕事をしたいと考えていました。その一方で、大学、米国留学中、大学院在籍中、ヒトが母語や第二言語を獲得していくプロセスに関する研究が極めて乏しいことも知りました。そこで、大学院に進学し、第2言語習得論とその評価方法である言語テストの開発に関する研究がしたいと思うようになりました。

英語専攻のみなさんは英語に興味を持っている方が多いはずですが、自分の英語学習経歴がどのようなものであったか思い出してください。なぜ、英語学習に興味や関心を抱くことが出来たのでしょうか?人それぞれにその経緯は異なります。万人に役立つ教授法は存在するのでしょうか?このようなことを考えることは自分の学習を振り返るだけでなく、今後の英語に限らず言語の教育を考える際にとっても大切なことだと考えます。現在、このような興味を私と共有してくれる学生のためにゼミを開設しています。オフィスアワーの時間などを利用して研究室にも遊びに来てください。授業や研究に限らず、趣味などについても学生の皆さんと話をしたいと思っています。

<川瀬義清 (かわせよしきよ) >



九州大学卒業後、同大学文学部英語学英文学研究室助手を経て1978年に西南学院大学に着任しました。主な担当科目は、英語総合演習、英文法、英語学研究などです。研究テーマは人間の認知的側面から見たことばの意味に関すること、すなわち人間が自分の身の回りの世界をどのようにとらえ、それをどのようにことばで表現するかについて研究しています。2002年春より1年間ハワイ大学で研究活動に従事しましたが、ハワイはいろんな意味で人種や文化の入り交じったところで、この1年は異文化を考える上でとてもいい経験になりました。

私は一見優しそうに見えますが、実は結構厳しい先生です。教えることが好きで、授業にはつい熱が入ってしまいます。また学生か

らの勉強，留学などの相談にも快く応じることにしています。

専門以外にも，歴史や生物学など幅広い興味があり，授業中にもいろいろ楽しい話題を紹介します。好奇心も旺盛なほうで，学生の話す最近の流行などにも耳をそばだてています。

<清宮 徹 (きよみやとおる) >

埼玉県浦和市(現さいたま市)の出身です。法政大学社会学部卒業後は，日本生産性本部に就職しました。そこでは社員研修用ビデオ教材のプロデューサーとして，幅広く産業界で活用されるビデオの制作にたずさわりました。また人事制度に関するコンサルティングを行うと同時に，企業内研修の企画・運営，講師も務めました。このように，一般的な大学の先生方と違って，サラリーマンを長く経験したことは，現在も大きな財産だと思っています。

8年間働いたあと退職し，ミシガン州立大学大学院へ留学しました。修士課程では労使関係・人的資源(修士号: Master of Labor Relations & Human Resources)と博士課程ではコミュニケーション学(博士号: Ph.D. in Communication)を学びました。米国オクラホマ州の私立大学(タルサ大学)とテキサス大学サンアントニオ校では助教授として，コミュニケーションとビジネス関連の科目を教えました。

本学には2001年10月に着任し，今に至っています。現在の授業では英語演習，ビジネス英語講読，コミュニケーション概論，コミュニケーション学基礎演習(研究法)，ゼミ(組織とビジネスのコミュニケーション)などを担当しています。専門は組織コミュニケーション。2007年，ヨーロッパで盛んなディスコース分析を在外研究先のカーディフ大学(イギリス)で学び，現在は組織ディスコースに焦点を当てて研究活動をしています。研究上の主な関心・テーマは，組織民主主義，批判的経営研究，比較産業関係論，日本の経営，組織文化論，組織変革，交渉論，リスクマネジメント，企業の社会的責任(CSR)論などです。

とくに近年，リスクマネジメントに関する講演やコンサルティングの仕事が増えています。従来の危機管理の視点の限界を乗り越え，社会構成的なリスクの視点を発展させながら，社会の発展と転換を提唱したいと思っています。

趣味は，大学時代から本格的にはじめたスキーです。スキースクールで，インストラクターをしていました。最近は旅行やキャンプなど，自然と接することが楽しみです。とくにアメリカの国立公園を巡ったことが，今でも忘れられません。



<久屋孝夫 (くやたかお) >

広島大学大学院修了後，1977年に本学に着任しました。専攻は歴史社会言語学です。出発点は初期近代英語の歴史的研究です。その一環として，コーパス言語学的分析により16世紀前半の作者不明劇作品の作者推定を行いました。その後，差別の言語化の様相を歴史的に研究し，「言葉狩り」や「ポリティカル・コレクトネス(PC)」と世直しの関係に歴史的・社会的関心を抱くようになりました。

フェミニズムが私の研究に及ぼした影響は大きいと言えます。



フェミニズムの言語的挑戦とは、これまで女たちが共有しながら「名前のない経験」に命名することでした。「セクシャルハラスメント」、「ドメスティック・ヴァイオレンス」や「買春」（売春ではなく）という造語は、それが権力を持つ側の犯罪性を示すゆえに画期的でした。

私の関心は、ことばの情報伝達の機能、形式論理的合理性を超えたところにある、言語の情感伝達機能、詩的機能、および社会的機能です。楽しいのに happy, fine, fun ということばを使わず楽しさを表現し、楽しくもないのに happy, fine, fun を連発してしまうヒトの言語の不思議さ（のからくり）に惹かれます。To call a spade a spade ということばがありながら、他方に beyond description, words fail me という言語の限界を認める洞察あふれる言い回しがあるのも興味深いですね。言語とは、合理・論理だけでなく、人間存在自体の非合理・不合理を本質的に内包するものです。それは人を超越る摂理というべきものでしょう。

もうひとつの関心は英語の多様性です。在外研究先のロンドン大学(キングズコレッジ, ユニヴァーシティコレッジロンドン) やオークランド大学 (NZ) その他の地域で、グローバル時代の民族と文化と言語の混交、さまざまな「新英語」の誕生を目の辺りにして、社会言語学研究の重要性を痛感しました。

私の担当科目は、演習(sexism, political correctness, euphemism), 英語史(varieties), 英語演習 I(rhetorical devices), 英語学概論 A(wordplay, historical semantics), 英語学研究 A(sociolinguistics)などです。(括弧内の英語は各科目の特徴を示すキーワード。)

「男のコケン(沽券)・女のコケン(個権)」「川柳楽(がく)からひと(女・男)を見れば」などの題で公開講座や講演を行ってきました。エッセイとして「私のハズバン道(どう)」、「社会と言語と性差別」、「自立と水平の場を拓く」、中学生向け人権教材として「宅配便・夜の地球」、成人向けのブックレット「21世紀の女(ひと)と男(ひと)」があります。

音楽の趣味はモダン・ジャズとクラシック、いずれもピアノを中心とした曲を好んで聴きます。スペイン・フラメンコ系やタンゴ(英単語ではなく)、ボサノバなども好きです。

家庭では二人の娘から「歩くディクショナリー」として、同い年のつれあいからは「歩くディッシュ・ウォッシャー」として重宝がられています。50の手習いで水泳に目覚めました。衰えゆく自らの肉体を自覚したからです。「かなづち」でしかなかった私の目覚ましい進歩で、やっと平泳ぎを、口の悪い若いインストラクターに少しだけ褒めてもらえるようになりました。ほめられる体験は大事です。ほめてけなして、またほめて・・・そういう私ですから「学生さんこそ神様」と思いながら褒めたたえつつも、鉄(人)と見立て、とことん鍛え申し上げねばと思う毎日です。「鉄は熱いうちに打て！」みなさんには打たれ強くなっていただきたい！

<宮原 哲(みやはらあきら)>



皆さんと同じ西南学院大学の英語専攻の卒業です。在学中、交換学生として、ニューヨーク州立大学に留学しました。卒業後、ペンシルバニア州立大学大学院で、スピーチ・コミュニケーションを専攻し、修士(MA)、博士(Ph.D.)の学位を取得し、ペンシルバニア州立ウエストチェスター大学講師を経て、母校の教壇に立つようになりました。

在外研究を二度(デラウェア大学・ハワイ大学)、フルブライト研究

員（ハワイ大学）を経験しています。担当科目はコミュニケーション概論，コミュニケーション講読などです。専門は対人コミュニケーションで，特に友人，家族，会社の同僚の間などで意見の対立が起こったとき，どうそれを処理すればいい関係が保てるか，また説得行動の異文化（アメリカ，韓国，中国など）比較研究を得意としています。ゼミでは現代日本人の「コミュニケーション不全」に焦点を当てて学生同士の人間関係をテーマとして取り上げ，学外では男女共同参画の推進，医療現場での医師，看護師，患者，家族間の安全なコミュニケーション，企業内の上司と部下との信頼関係に向けて講演，研修，ワークショップを提供しています。

コミュニケーション論は日本ではまだ教育，研究の歴史が浅いので，その理解を深め，満足できる人間関係を築くための実践能力を開発，広報することを目的として，新聞のコラム，テレビ，ラジオ番組などにも登場しています。著書として「コミュニケーション哲学」，「入門コミュニケーション論」，「コミュニケーション最前線」などがあります。多くの人に奥の深い人間コミュニケーションについて考えてもらい，自分の人間関係を見直してほしいと願うのと同時に，私自身の家族，後輩である学生との人間関係も日々振り返っています。

同じ西南学院大学英語専攻の先輩として，コミュニケーションの勉強，実践はもちろん，留学，就職，それに日頃の人間関係について語りに，気軽に研究室を訪ねて来てください。



<Duane L. Olson (ドゥエイン オルソン)>

1983年，留学生として初めて来日しました。留学，仕事を含めて通算6年間の日本滞在を経て，本学の講師として着任したのは1993年です。ミネソタ州立大学のスピーチ・コミュニケーション学部で修士号（1990）と博士号（1998）を取得しました。専攻は（説得理論・修辞学）です。

授業の担当科目はパブリック・スピーキング，レトリック（ゼミ），マスコミ論，英語演習などですが，主に公的コミュニケーションのメッセージ作成・影響・分析法に重点を置いた講義をしています。最近マスコミ論ではメディアリテラシー教育を導入しています。研究課題

は日英の公的コミュニケーションの比較，とりわけ政治的なレトリック，儀式のレトリック，レトリックと倫理などです。

これまでの主要な研究論文は，*The Resignation of Lord Carrington: A Case Study on Non-Denial Apologia and the Rhetoric of Public Self-Sacrifice*," 福岡大学人文論叢第22巻第2号1990; *"Problems in Assessing Ethics in Intercultural Communication: The Case of the Emperor's Apology to South Korea, May 24th, 1990"* 西南学院大学英語英文学論集第36巻3号1996; *The Ritual Creation of a Symbol: A Rhetorical Analysis of Japanese Emperor Akihito's Accession Rites*. University of Minnesota, May 1998. (博士論文) などです。

現在は日英戦後政治的コミュニケーションの比較研究に注目しています。

<武井俊詳（たけいたかよし）>

1950年7月23日に京都府の北端の奥丹後の宮津市に生まれました。仙台の松島、安芸の宮島と並ぶ日本三景の1つ天の橋立のある風光明媚の当地で18年間育ちました。1年間の「浪人」を経て、神戸市外国語大学、同大学院修士課程を修了。また1年間の「就職浪人」を経て、大阪府立貿易専門学校の専任講師として5年間勤めました。1982年4月に本学の専任講師となり助教授を経て現在に至っていますが、2005年3月で勤続23年となりました。担当科目は英語、英語演習の他に、ビジネス英語や経済英語です。



研究テーマは「意図することをできるだけ正確かつ簡潔に活写する術」を追求することです。その一環として、現在は契約書や規程・規約などの表現を plain English でいかに表現するかを研究しています。「活写」という点では、字数や締切の厳しい制約のなかで読者の関心を引き、読者を知的に刺激する英文雑誌の記事を分析することをテーマに、ここ2～3年セミナーで学生と研究しています。

ビジネス英語関係の学会の他に、英語教育関連の学会に所属しています。

2. 授業以外での教員との面会について

2.1. オフィスアワーを利用する

オフィスアワーとは、学生が教員と対話するために設けられた時間帯のことです。講義の内容に関する質問だけでなく、それぞれの先生と話をしてみたいときに、気軽に先生の研究室を訪問することができます。この時間帯は、基本的に、アポイントメントなしに先生方の研究室を訪ねることができるようになっていますが、実際は、急な会議、出張などが入ることもあり、事前にEメールや電話でアポイントメントを取るのが慣例となっています。先生方の研究室は、すべて学術研究所内にあります。Eメールでアポイントメントを取る時は、件名欄に「面会希望 08-2081 樋口太郎です」のように、送信者と用件を簡潔に書くのがマナーです。送信者、件名不明のメールは、迷惑メール/ウィルスメールと見なされ、削除されることがあります。研究室を訪問する際は、いきなり先生の研究室をノックするのではなく、学術研究所一階ロビーに設置された学内電話から先生に訪問の旨を伝え、それから研究室を訪問するのがマナーです。各先生の内線番号は、4+研究室番号です（学外からは092 823-4+研究室番号）。英語専攻の各先生の研究室番号、Eメールとwebsiteのアドレスは以下の通りです（姓のアルファベット順）。Websiteは、まだ立ちあげられていない先生もおられるので、あしからず。

C.R. Chase (203) chase@seinan-gu.ac.jp
http://www.seinan-gu.ac.jp/~chase/
C. Daugherty (451) cld@seinan-gu.ac.jp
http://www.seinan-gu.ac.jp/~daugherty/
藤本滋之 (233) fujimoto@seinan-gu.ac.jp

福田 靖	(406)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~fujimoto/fukuda@seinan-gu.ac.jp
樋口 功	(427)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~fukuda/higuchi@seinan-gu.ac.jp
伊藤 彰浩	(631)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~higuchi/ito@seinan-gu.ac.jp
川瀬義清	(421)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~kawase/kawase@seinan-gu.ac.jp
清宮 徹	(541)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~kiyomiya/kiyomiya@seinan-gu.ac.jp
久屋孝夫	(321)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~kuya/kuya@seinan-gu.ac.jp
宮原 哲	(537)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~miyahara/miyahara@seinan-gu.ac.jp
D.L. Olson	(231)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~olson/olson@seinan-gu.ac.jp
武井俊詳	(405)	http://www.seinan-gu.ac.jp/~takei/takei@seinan-gu.ac.jp

オフィスアワー以外でも先生との面会は可能です。面会の際は、事前に E メールなどでアポイントを取るのがマナーです。何の前触れもなく先生の研究室をいきなり訪問するのは、マナー違反です。

2.2. アドバイザー制について

英語専攻の学生のために、教員による「アドバイザー」制度を設けており、アドバイザーは勉強をはじめ、あらゆる相談に乗ってくれるでしょう。

3. 学生相談室 (2号館3階) について

「一人暮らしに馴れない」「友人関係で悩んでいる」「授業についていけない」「進路について迷っている」「自分の性格について考えたい」「トラブルに巻き込まれて困っている」「気分が落ち込んで何もやる気がしない」等々、悩み事・問題があるにも関わらず、どこに相談すればよいかわからないような場合は、気軽に学生相談室を利用してみましょう。専門のカウンセラーが大学生活を送る上で生じるさまざまな相談に応じてくれます。学生相談室では、控え室をラウンジとして開放しています。お茶や雑誌なども用意されており、ちょっと疲れたとき、静かに休憩したい時などにも気軽に利用することができます。

4. 図書館の紹介

図書館は、大学で学習するに当たって、欠かすことの出来ない施設です。ここでは英語専攻に関係することを中心に、図書館の使い方について説明します。なお、図書館に関する一般的な情報は、Campus Guide の図書館案内、図書館のホームページ (<http://www.seinan-gu.ac.jp/library/index.html>) を参考にしてください。

英語を中心とする語学に関する図書は、4階にあります。階段を上がって、右側に和書、左側に洋書が置いてあります。それぞれの棚には、分類番号が書いてありますので、それを参考に探す事が出来ます。

本の探し方は、二通りの方法があります。一つは分類番号を参考に本が置いてあるところに行って、一冊ずつ見ていく方法、もう一つは、パソコンの検索機能を使って探す方法です。最初の探し方は、原始的ですが、ある分野に関するものを漠然と探すようなときには便利な方法です。また、本を直接見ることが出来ますので、思いがけずおもしろい本を発見することもあります。探したい本がはっきりしているときには、二つ目のパソコンを使った検索が便利でしょう。図書館のホームページから「OPAC」をクリックすると検索のページに行くことが出来ます。「目録検索」のページでキーワードを入力して本を探します。OPAC の使い方については図書館のホームページを参考にしてください。

図書館には一般の本とは別に4階（階段を上がってまっすぐ行った左手）に“extensive reading”のテキストが置いてあります。これは、英語の読解力を鍛えるためのテキストで、語彙の難易度に応じて、5つのレベルに別れていますので、自分のレベルに合ったものを選んで読む事が出来ます。また、内容も、文学作品、映画、自然、趣味など多岐に渡っており、楽しみながら英語の読む力をつけることが出来ます。

また、図書館にはビデオテープもたくさんあります。これは必ずしも英語のテープだけではありませんが英語のものもありますので、これを利用して英語の学習をすることも出来ます。

図書館にはこの他にもいろいろの機能がありますので、是非上手に使いこなしてください。

5. 言語教育センター紹介

言語教育センター (CLE: Center for Language Education) は、3号館の3階、4階にあります。CALL 教室、LL 教室、AV 教室は、主に授業で使いますが、ここでは皆さんが自習で利用できるテープライブラリーとビデオライブラリーを紹介します。テープライブラリーは、オーディオ教材、および CD-ROM 教材を借りて個人学習ができるシステムです。教材には英検、TOEIC、TOEFL などの資格試験用教材、英語を始めとする NHK 各種語学教材、English Journal, CNN English などがあります。ビデオライブラリーには、映画のビデオ (DVD) を中心として、外国語ニュース、発音教材、会話教材などがそろえてあり、その場で視聴することができます。評判になった映画のビデオ (DVD) もありますので、映画の好きな方はかなり楽しめると思います。映画では、英語の聞き取り訓練だけでなく、具体的な場面との関連、外国の文化背景なども学ぶことが出来ますので、総合的な学習が可能です。また、ビデオライブラリーには、アシスタントがいますので、学習目的に合った教材選びのアドバイスを受けることも出来ます。外国語を学習するには、教

室の授業だけでは不十分です。なるべく多くの時間外国語に触れることが必要ですので、このような施設を上手に利用して語学力を高めてください。なお、テープライブラリーやビデオライブラリーの利用の仕方については Campus Guide の言語教育センター案内や SAINS ポータル(<https://seis.seinan-gu.ac.jp/ActiveCampus/index.html>)の言語教育センター案内を参考にしてください。

他に、課外の自主的語学実習として、学期ごとに、英会話クラス、TOEIC コース、英語音声学実習など様々なクラスがあり、楽しく英語を学習することができます。

また、2009年の秋に既存の CALL 教室 (3-307) に加えて、もう一教室 CALL 教室が増設されました。これはこれまで LL 教室として使用されていた3号館4階の405教師の機材を更新して CALL 教室としたものです。この教室にも e-learning 用ネット教材として ALC NetAcademy (2008年2月にさらに充実した NetAcademy2 に更新済み、所定の手続きによって自宅からのアクセスも可能) が導入されており、コンピュータを利用してリスニング、リーディング、TOEIC の練習を始めとし、語彙学習や英文法の学習が出来るようになっていきます。授業の無い時間帯には自習に解放されていますので、ぜひ利用してください。

6. インターネット利用法

西南では西南学院大学総合情報ネットワーク (SAINS) を通じて、インターネットを利用することが出来ます。インターネットを使うと、日本国内だけでなく、世界中の様々な情報を手に入れることが出来ます。授業の課題のための資料調べ、英語学習、メールシステムを使ったコミュニケーションなど様々な利用の仕方が可能です。これからの情報社会にそなえて、是非上手に利用できるようになってください。

ここでは、インターネットで利用できる英語学習のサイトをいくつか紹介しておきます。

まず、英語学習のための総合サイトとして「スペースアルク」のホームページ (<http://www.alc.co.jp/>) があります。レベル診断テスト、オンライン辞書、各種資格試験の模擬問題、海外旅行の情報など盛りだくさんです。興味のある人は一度訪れてみてください。「Interesting Things for ESL Students (<http://www.manythings.org/>)」は、ゲーム感覚で英語学習ができるクイズがたくさんあるサイトです。また、「外国語広場 (<http://gaikoku.info/index.htm>)」では、アメリカ歴代大統領の演説を音声で、聞くことが出来ます。「excite 翻訳」(<http://www.excite.co.jp/world/>) では、英語から日本語、日本語から英語の翻訳も可能です (もっとも常に正しい表現に翻訳してくれるわけではありません)。他にも英語学習に役立つサイトがたくさんあります。インターネット上でサイトを探すには検索エンジンを使うのが便利です。検索エンジンで一番有名なのは Google (<http://www.google.co.jp/>) でしょう。Google の検索画面でキーワード (例えば「TOEIC® 練習問題」) を入れると、関連サイトがリストアップされます。キーワード入力欄の右にある「検索オプション」を使うと、どの言語のサイトを探すか、どのドメインを探すかなどの詳しい条件を設定することも可能です。インターネットを使いこなすと、様々な情報を手軽に集めることができますので、上手に利用できるようになってください。

なお、SAINS の登録、利用方法などについては、Campus Guide の情報処理センター案内やホームページ (<http://www.seinan-gu.ac.jp/center/index.html>) を参考にしてください。

第4章 留学

1. はじめに： 留学を考えている人へ

英語専攻に入学し、実際に使える英語によるコミュニケーション能力を習得するには、在学中に一度は留学したい、と考えている人も多いでしょう。西南学院大学は30年以上にわたって、海外の大学と交換学生の制度を実施し、これまでにこの制度によって派遣された学生は約700名、受け入れた学生も500名を超えています。留学をすることによって、日本の大学だけでは限りがある異文化適応の経験や、習得したコミュニケーション能力を活かして、国際的な場で活躍するような就職をした先輩もたくさんいます。

留学をすることによって、新しい自分を見つけ、成長させる貴重な糧を得ることができるかもしれません。しかし、1年間という期間、これまでには経験したことのない環境で生活し、同時にそれをプラスのエネルギーに換えるためにはそれなりの準備が必要です。

本学では、派遣留学のほか、海外の大学での単位を卒業単位に換算することができる私費留学があります。派遣留学の最大の利点は、本学の授業料を納入することにより、留学先の授業料が免除になることで、私費留学の場合、卒業延期を避けるためには、本学と留学先と両方に授業料を納入する必要があります。アメリカの大学では1年間の授業料が100万円～300万円というところが多いので、費用の面では私費留学はかなりの負担になります。

留学以外には、休暇期間を利用した短期間の語学研修があります。それぞれの詳しいことについては、国際センター（2号館4階、823-3346）に問い合わせてください。どのような形であれ、留学の効果を最大限にするためには十分な準備が必要です。書類提出、語学試験申し込みなど、手続きには締め切りがありますので、定期的に国際センターで情報をチェックしてください。

2. TOEFLについて

留学の準備といっても、このハンドブックでカバーできることには限りがありますので、ここでは語学力についての準備に焦点を絞ります。Test of English as a Foreign Languageの頭文字をとったのがTOEFL（トーフル）と呼ばれる国際標準テストです。毎年、世界各地で数十万人単位の受験生がいるため、統計的にはじき出される点数（偏差値）は、英語圏の留学先での学習能力を予測するにはそれなりの信憑性があります。米国で開発、運営されるテストであるため、内容も米国の文化に偏りがちなところがあります。それにもかかわらず、現在では英国や、オーストラリア、それに韓国に留学する際にもTOEFLのスコアが求められるまでになりました。

本学の派遣留学生の選考も、英語圏に関してはTOEFLもしくはTOEFL-ITPというテストを基準にしています。TOEFL-ITPは約3000円程度で受験することが可能で、国際センターが年に5回実施しています。ある年度の派遣留学を希望する場合、その前の年の8月までの一年間のスコアでベストのものが考慮されますので、なるべく頻繁に受けてみるのが大切です。

トーフルは多くの問題集、参考書などが出版されていることからわかるように、「受験

技術」を伸ばすことによってある程度点数を上げることができるようです。しかし、英語専攻の学生としては、ただやみくもにトータル対策のためだけの勉強をすることはおすすめできません。日ごろから英語で読み、書き、話し、聞き、そして考える習慣をつけ、文法、発音、語彙、など総合的な英語力を上げることが大切です。そして、気がついてみたら、トータルの点数が上がっていた、というのが理想的でしょう。

効果的な英語力向上の方法は個人によって異なります。自分にあった方法を少しでも早く見つけることが大事な鍵を握っているといえるでしょう。本学には図書館や国際センターの蔵書のほかにも語学ラボラトリー所蔵の豊富なオーディオ、ビデオ、DVDなどの教材も、学生がいつでも利用できるように準備しています。積極的に利用しましょう。英語専攻には、TOEFL対策講座（「TOEFL・TOEIC演習B」）などがあります。また、私たち教員を生きた教材として活発な利用方法を見つけ出してください。

3. 海外語学研修に興味がある人へ

留学と言っても、いきなり1年間海外の、慣れない、そして家族や友人と離れた環境に身を置くことにはかなりの抵抗を感じて当然です。そこで、本学では夏休みと春休みを利用して、3～5週間の海外語学研修制度を設けています。行き先は、米国（本土、ハワイ）、カナダ、イギリス、オーストラリアです。研修は、英語の勉強に合わせて、それぞれの土地で「文化活動」を行います。たとえば、ロンドンやニューヨークでミュージカルを見たり、ハワイでフラダンスのレッスンを受れたり、といったオプションもあります。

また、英語圏以外では、フランス、中国、ドイツなどに行くことも可能です。所定の手続きをして、研修先で一定の成果を挙げれば本学の卒業単位の一部として換算する制度も運用しています。原則として、引率の教職員はいませんが、現地のスタッフが責任を持って、参加者の生活面、勉強面での便宜を図ってくれます。

寮に入る場合も、ホームステイする場合も、これまでに語学研修をした学生の経験によると、多くの友人を作り、研修後も連絡を保ったり、再び同じ家庭を訪れたりするなど、異文化の人間関係構築に役立っています。短い期間ではありますが、本格的な留学のための予行演習として、あるいは、大学在学期間中のユニークな「自分探しの旅」としても、一度考えてみることをおすすめします。

4. 留学生との交流に興味がある人へ

交換留学や私費留学、あるいは語学研修はどれもそれなりの費用が必要です。そこで、一度「学内留学」を試してみたいかどうかでしょう。毎年30名近くの交換留学生と、20名以上の本科への留学生がキャンパスにいます。そのほとんどの学生が日本語能力を身につけたい、という気持ちで留学しています。日本人学生と友達になりたいと思っている学生ばかりです。知らない人、しかも外国から来た学生に話しかけるのはかなりの勇気が必要ですが、外国語によるコミュニケーション能力を習得するためには、失敗を恐れず、どんどん話しかけてみましょう。日本語でも英語でも、あるいはその他の言語でも。

毎年、留学生に日本の文化を経験してもらい、日本人学生や、地域の人たちとの交流を盛んにするためのさまざまな企画が催されています。国際センター事務局がこれらの行事

の連絡先となる場合が多いので、注意しておきましょう。

5. 留学生別科の授業の聴講もできます

学内留学を可能にする、もうひとつの方法が、留学生用に開講されている科目の受講です。国際センターで所定の期間内に手続きをし、聴講料を払うと、聴講生として留学生別科の授業に参加できるのです。「異文化間コミュニケーション」、「日本人の心理」、「日本文学」、「日本の経済」、「日本の経営」などの科目が毎年開講されています。

毎時間の授業に出席、参加し、希望すれば試験を受けたり、レポートを提出したり、またグループ発表に参加することも可能です。日本人の学生の授業中の態度と、留学生の授業に対する考え方の違いを経験するだけでも興味深いことでしょう。日本の大学にいながら、海外留学の経験をすることができるのです。

留学生別科の学年暦は9月から12月までが前期、1月から5月までが後期となっています。また、留学生別科の授業が本科の授業時間と重なっている場合は聴講できません。その他、詳しいことについては国際センターに問い合わせてください。

6. 英語専攻の学生向けに国際センターからのメッセージ

留学全般のお世話をしているのが国際センターです。本学全体の国際交流を運営していますので、特に英語専攻の学生だけが特別扱いされることはありません。しかし、例年英語圏への派遣留学生のなかで英語専攻の学生が占める割合が高いことは事実です。他の学部 of 学生に比べ、英語能力が高いはずですから、選考で選ばれやすいということは事実です。また、英語圏への派遣留学には二つの選考基準があります。一つはA選考で、TOEFLかTOEFL-ITPで550点以上の学生で学業成績がB平均以上の学生が選ばれます。もう一つはB選考で、英語専攻の場合520点以上の学生で学業成績、小論文テスト、面接試験の点数が高い順に選ばれます。従って、A選考は、より英語能力に重きを置いた選考制度ですので、英語能力が高いはずである英語専攻の学生として、TOEFL550点を目指して頑張ることをお薦めします。

だからと言って、英語能力の高い学生だけが派遣留学生に選ばれるわけではありません。学業成績、留学の志望理由、小論文テスト、面接などが、語学力以外の選考基準ですので、普段からしっかりと勉強し、考える力と、自分の考えを明確に相手に伝えるコミュニケーション能力を磨いておく必要があります。

留学を希望しようと考えている皆さんに、ここで今一番考えていただきたいことは、なぜ留学したいのかということです。単に英語能力を伸ばしたいということであれば、留学する必要は特にありません。日本にいながらでもできることですし、また上記のような短期語学研修に参加することでもできることです。むしろ大切なことは、留学中に何をしたいのか、何を学び、経験し、身に付けて帰って来たいのか、そして、身に付けたものをどのように自分の将来、特に大学卒業後に活かしたいのか、について考えるべきです。目的意識をはっきりとそして強く持った人ほど留学の成果が上がります。

国際センターには、派遣留学が可能な協定校の資料が揃っているばかりでなく、派遣留学した先輩達の体験談が読めるようになっています。留学を希望する前にこういった資料

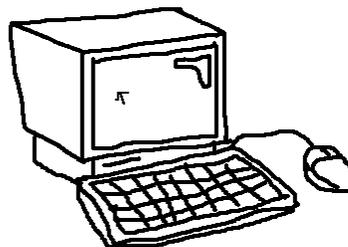
を閲覧して、自分なりに留学について深く考えてみてください。

7. どのような留学先があるか

本学では、現在英語圏では米国、カナダ、イギリス、などの十数大学と交流協定を結び、毎年学生を交換しています。どの大学に留学するのか、ということは学生の希望を重視しますが、ひとつの大学に希望者が集中したような場合は、第一志望の大学に留学できない、ということもあります。

どこの、どのような大学に留学するのか、ということは、私費留学の場合かなり大きな問題です。米国の大学に留学する場合、私立・公立、4年生・2年生、学部留学・大学院留学、という具合に分けて考えることができます。帰国後、留学先の大学の単位を卒業単位として換算することを希望しているのであれば、一定基準を満たしている大学としての認定（**accreditation**）を受けている大学を選ぶ必要があります。大学在学中に留学する、という大きな経験ですから、できる限り多くの情報を入手した上で、最終的な決断をしたいものです。

留学を斡旋する業者も国内外に多数あります。インターネットで調べることも可能でしょう。しかし、英語専攻のスタッフの中には、留学はもちろん、海外の大学で教鞭をとったことがある教員もいます。生きた教材を活用するために、積極的に研究室を訪れましょう。



第5章 卒業後の進路

1. 就職について

実際の就職活動が始まるのは3年次終わりの2月ですが、その準備のための第1回の「就職説明会」「就職講座」ほか、就職関係の諸行事は3年次の6月に始まりますから、入学後もあまりのんびりしている間はありません。また、年々関心が高まっているインターンシップの募集は毎年5月早々にあります。日本航空グループのインターンシップ（海外研修もあり）は英語専攻の学生に特に人気があり、2年次で応募する人もいます。「航空事業概論」「ツーリズム概論」（臨時開講科目のため「講義要綱」にのみ記載）を履修し、TOEIC 600点をクリアしておくなど、計画を立てて準備する必要があります。就職課の情報（掲示、サイト、iSaints）にも絶えずアンテナを張っておき、機会を逃さないよう注意が必要です。

2. 教職について

英語専攻では、教職課程を履修することにより、「中学校教諭一種免許状・英語」「高等学校教諭一種免許状・英語」を取得することができます。教職課程は2年次からの履修です。1年次の終わり、3月下旬に開催される履修説明会に出席して申し込みます。英語専攻の場合、教職課程の教科に関する科目はその大半が卒業に必要な専攻科目・関連科目でもありますから、余分に必要な単位は中学の免許で31(高校は23)だけとなります。

2.1. 公立学校だけではなく、私立学校も視野に入れる

近年、教職を目指すものにとっては、公立学校だけではなく、私立学校も視野に入れることが重要なポイントとなってきました。私立学校では、中学・高校が併設されているところが多く、その双方を教えることができる人材を求めています。私立学校では、また、採用後に、中学を担当するか、高校を担当するか、あるいはその双方を担当するか、を決めるところが大半です。これに加え、公立学校でも中高一貫校が増加傾向にあること、卒業後小学校教員免許を併せて取得すること(後述)などを考慮すると、教職志望者には、在学中に中学校・高校、双方の教員免許を取得することを強くおすすめします。

2.2. 在学中に心がけておくこと、勉強しておくこと

公立・私立を問わず、採用試験の際、英語の試験のみならず、教案の作成や模擬授業を課すところが増えてきました。これに加え、特に私立学校では、まず、新卒者を非常勤講師・常勤講師（期限付き専任講師）として採用し、人物・指導力を実際に見てから、専任としての採用の可否を判断するところが増えてきています。この厳しい状況をクリアするためには、在学中から、教員に要求される知識、授業に関するスキルなどを身につけるべく、

意識的に努力する必要があります。英語専攻では、英語科教育法、演習（ゼミ）などでその対策を講じますが、真剣に教員を目指す人は、英語の知識・スキルを強化することに加え、在学中から、塾などで複数の生徒を前に授業をする経験を積むなど、授業に関するスキルを身につけことをおすすめします。

最近では、採用試験で筆記試験のみならず、英語による討論・面接を課す公立学校が増えています。スピーキング・リスニングのスキルは、一朝一夕で身に付くものではありません。日頃から明確な目標を持ち、大学の授業、留学、海外語学研修、クラブ・サークル活動(ESSでのディベートの訓練)などを通し、スキルを強化しておくことが肝要です。

3. 大学院進学について： 飛び級進学に注目

大学卒業後の進路として大学院進学もあります。英語専攻で勉強した内容をもっと深く勉強するため、言語学、コミュニケーション学のコースを持つ大学院に進学する場合もあるでしょうが、学部とはまったく異なる分野を専攻する場合があります。過去には英語専攻から法学研究科に進学して大学の教員になった卒業生もいます。また、2004年度にスタートした法科大学院（ロースクール）へ進学する道も考えられます。西南学院大学大学院にはいろいろな専攻コースがあります。言語学やコミュニケーション学を勉強したい場合は、文学研究科英文学専攻を受験します。9月と2月の年2回入試がありますが、大学院には通常の入試以外に特別選考(3年次までAを90単位以上修得した者は筆記試験免除)や飛び級進学(3年次までに卒業に必要な単位の4分の3以上を修得し、かつその2分の1以上がAであること)の制度があります。

大学院は、2年で修了する場合(博士前期課程、修士号取得)と5年で修了する場合(博士後期課程)があります。前者の場合、より高度な専門知識を身につけ、中・高の専修免許を取得して教員になる進路が一般的です。後者の場合、研究者として大学の教員になる道が開かれます。

「英専ガイドブック」2010

Department Chair, Department of the English Language
Seinan Gakuin University

2005年3月1日 初版発行

2010年4月1日 重版発行

編著者 西南学院大学文学部外国語学科英語専攻
(代表：英語専攻主任)

発行者 西南学院大学文学部外国語学科英語専攻

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号
西南学院大学学術研究所内